2023年度　海洋教育実践記録集

与論町教育委員会

与論町における海洋教育について

はじめに

与論町は「島だちの教育」を理念として掲げ，「島発ち」「島建ち」「島立ち」の３点を抱合するものとして大切にしています。その理念は，島を出発するまでに島を知り，基礎的な知識・技能を身に付けること，島を建設・創造するための課題発見力や問題解決力を育み，どこの地でも自立できるための学びに向かう力・人間性を身に付けることを目指すものです。加えて，令和の日本型学校教育においては，「個別最適な学び・協働的な学び」のキーワードに示されるように，ICT を活用した個々人の学びの促進と多様な人々と協働の充実が求められます。そのような，時代に即したこれからの学びのためにも，この海洋教育が与論町における探究的な学びの核となることを願っています。

～令和３年度海洋教育副読本より抜粋：「はじめに」与論町教育委員会教育長　町岡　光弘～

与論町の海洋教育について

・　目標

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して，「島だちの力」を身に付ける。

・　内容

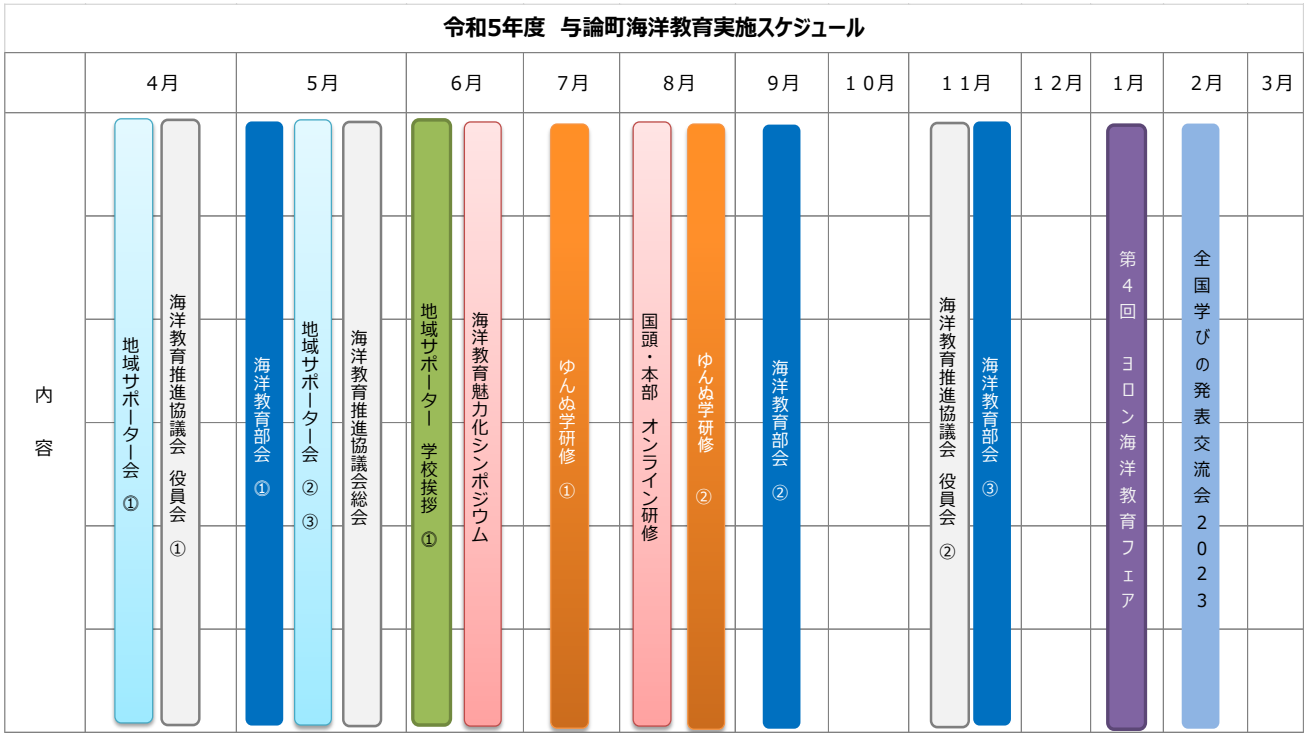
町内の全ての小・中・高等学校と地域住民が連携・協働しながら「与論島の海とくらしの課題についての探究活動」を展開することにより，与論島の子供たちに，自分の夢や目標に向かって力強く歩んでいくための「自己開示の力・自己表現の技術・レジリエンス・豊かな職業観や勤労観・探究的に学ぶ姿勢」等(＝「島だちの力」)を身に付けさせる。

小・中学校においては、令和４年度から教育課程特例校として総合的な学習の時間等の時数の一部を削減し，減じた時数を海洋教育科「ゆんぬ学」に割り当てる。小・中学校の児童生徒は、総合的な学習の時間で身に付けた「自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力」や「学び方やものの考え方」を、海とともにある与論島の実社会で生かすことにより，それらの資質や能力等を海と人との共生や島だちに必要な力として強化していく。そして，それらの学びを高校で行われている総合的な探究の時間「ゆんぬ」につなぐことにより，すべての学校段階で海洋教育を具体的に推進していく。

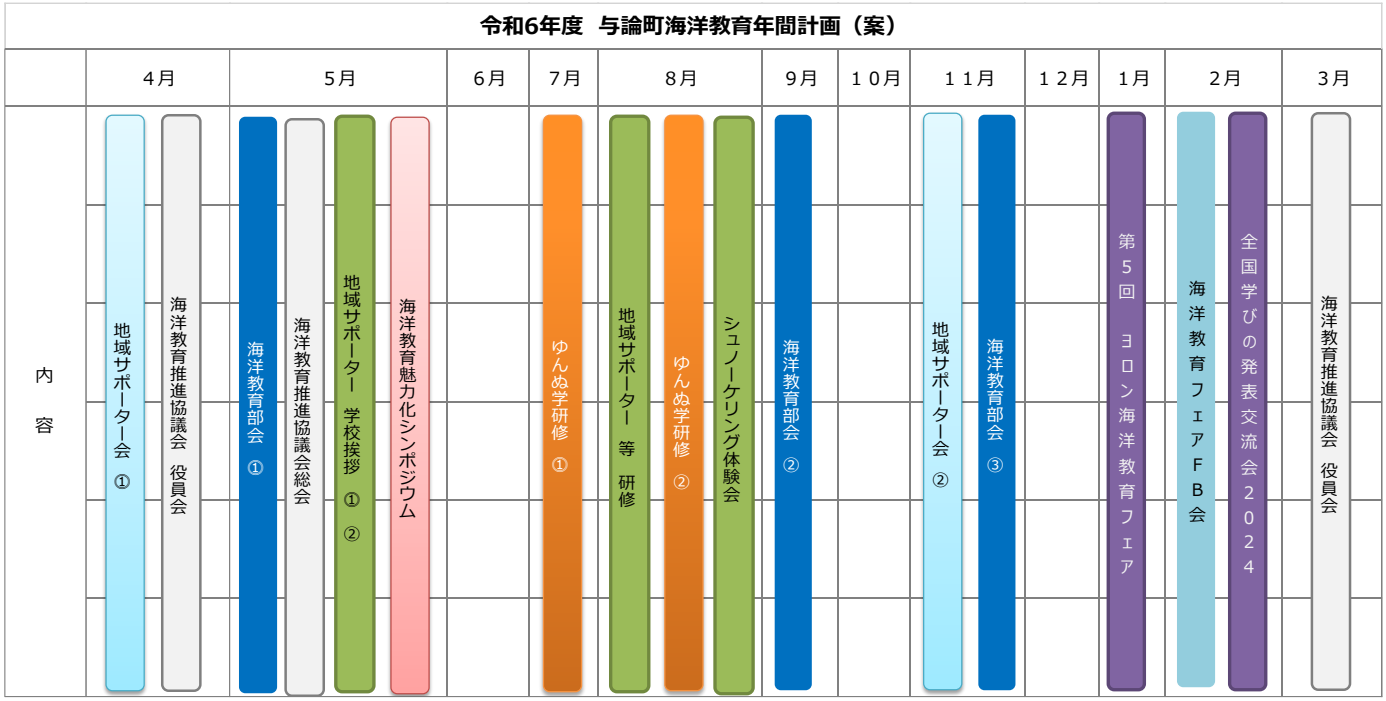
与論町海洋教育グランドデザイン

与論町海洋教育実施スケジュール

令和５年度海洋教育年間実施スケジュール



令和６年度海洋教育年間計画（案）



各校での海洋教育の位置付け

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

海洋教育全体計画

与論町立与論小学校

学校の教育目標

校訓「至誠」を胸に，未来に挑む子供の育成

めざす子供の姿

〈進んで学ぶ〉
課題をもち意欲的に学習する子供

〈深く考える〉
よく考え，誠の心で行動する子供

〈やりぬく〉
目標をもち，がんばる子供

海洋教育のねらい

海洋教育は，海と人の関係について理解を深めるとともに，海洋教育の保全を図りつつ，国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識，技能，思考力，判断力，表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために，海を知り，海に親しみ，海を守り，海を利用する学習を推進する。

本年度の重点目標

○　与論の自然豊かな海に関心をもち，課題を意欲的に解決できる子供を育てる。
○　探究・体験活動に進んで取り組み，自分の考えをもち，自己の生き方について考えることができる子供を育てる。

各学年の海洋教育の内容

		育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
3年	○ユンヌフトゥバ⑩ ○与論のいいところを探そう⑱ ○郷土芸能に親しもう⑧ ○ふるさとたんけん与論島⑭	自分たちのふるさと「与論島」について，海や地域のくらし，働く人の姿を調べることができる。	自ら設定した課題を解決するために見学やインタビューなど自分なりの方法で追究し，調べたことを工夫してまとめることができる。	課題の解決に向けて，目的意識をもって取り組むことができる。
4年	○ユンヌフトゥバ⑩ ○郷土芸能・行事について調べよう⑭ ○郷土芸能に親しもう⑥ ○与論の海と水⑮	川のない与論の人々が水を得るためにどのような苦労や知恵を出し合ってきたか知り，水の大切さを考えることができる。	水のことについて調べ，自己の生き方につなげて考えることができる。	課題の解決に向けて，目的意識をもって意欲的に取り組むことができる。
5年	○ユンヌフトゥバ⑩ ○与論をプレゼンしよう⑥ ○郷土芸能に親しもう⑤ ○与論のサンゴを守ろう⑰ （サンゴ増殖体験）	与論をテーマに伝えたいことを発見し，分かりやすいプレゼンの資料を作成することができる。	課題解決のために，必要な情報を集めることができ，それを蓄積することができる。	課題意識をもち，自分なりの方法で学習，探究活動に取り組むことができる。
6年	○ユンヌフトゥバ⑩ ○修学旅行の旅先を考えよう⑫ ○郷土芸能に親しもう⑤ ○与論のよさを伝えよう⑰	故郷である与論について改めて考えたり，調べたりすることを通して，与論のよさを実感することができる。	自分の興味・関心を基に，海洋教育に沿った学習課題を見つけ，考えることができる。	海洋教育に対して課題意識をもち，自分なりの方法で工夫しながら学習，探究活動に取り組むことができる。

ゆんぬ学　年間指導計画

	1学期		2学期		3学期		年間時数
3年生	ユンヌフトゥバ③		ユンヌフトゥバ④		ユンヌフトゥバ③		50
	与論のいいところを探そう⑱		郷土芸能に親しもう⑧				
			ふるさとたんけん与論島⑭				
	1学期時数	21	2学期時数	26	3学期時数	3	
4年生	ユンヌフトゥバ③		ユンヌフトゥバ④		ユンヌフトゥバ③		45
			与論の水と海⑭		郷土芸能・行事について調べよう⑫		
			郷土芸能に親しもう⑥		与論の水と海③		
	1学期時数	3	2学期時数	24	3学期時数	18	
5年生	ユンヌフトゥバ③		ユンヌフトゥバ④　方言劇⑤		ユンヌフトゥバ③		46
	体験学習について調べよう③		郷土芸能に親しもう⑤		与論のサンゴを守ろう②		
	与論をプレゼンしよう⑥		与論のサンゴを守ろう⑮				
	1学期時数	12	2学期時数	29	3学期時数	5	
6年生	ユンヌフトゥバ③		ユンヌフトゥバ④		ユンヌフトゥバ③		53
	与論と修学旅行先のつながりを調べよう⑬		郷土芸能に親しもう⑤		卒業に向けて⑨		
			与論のよさを伝えよう⑯				
	1学期時数	16	2学期時数	25	3学期時数	12	

令和５年度　ゆんぬ学　全体計画

与論町立茶花小学校

＜与論町ゆんぬ学　グランドデザイン＞

祖先の遺訓である誠を「島に誇りを持ち，誠実で利他の心があり，真理や理想を追求する精神」であるととらえ，夢や希望を持ち，粘り強く学び，変化の激しい社会で困難を乗り越えて積極果敢にたくましく生きる人間の育成

＜学校の教育目標＞

ティダ（夢実現）に向かって，胸を張って堂々と生きる子供を育てる

＜ゆんぬ学の目標＞

○　与論の海とくらしに関心をもち，主体的に課題を解決できる子供を育てる。

○　活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら，協働して学習を進め，自分の考えを豊かに表現し，自らの生活のあり方を考える子供を育てる。

＜児童の実態＞

・相手意識をもって考えを分かりやすく伝えたり，相手の話を聞いたりする力が十分ではない。

＜保護者の願い＞

・社会の変化に柔軟に対応できる強さをもって島だちして欲しい。

＜地域の特性＞

・子供一人一人を地域で見守っている。

＜他教科の関連＞

① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ

② 学習内容でつなぐ

③ 指導方法でつなぐ

海洋教育を通して育みたい能力と態度（8 コンピテンシー）

情報収集・判断	海に関して適切な情報を収集し，総合的に判断する能力
対話	海の諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力
問題解決	海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力
持続的利用	海の恵みを持続的に利用できる能力
主体	海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度
継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度
関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度
感動	海に親しみ大切にする態度

＜地域との連携＞

○各種教育施設や社会教育機関団体等との連携

○地域の教材や学習環境の積極的な活用

○与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよろん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携

教材の工夫

○地域の教育資源活用

・地域の人，物，事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材，行事等の学習素材を調査し整備する。

・総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。

○教材化の視点

・総合的な学習の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。

・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。

・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。

※　与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。

問題解決的な学習における学習過程

(1)「課題をつかむ」段階

・教科学習の発展として
・行事等への主体的な関わりから
・生活の中の気付きから
・様々な体験から

(2)「計画・追究する」段階

・どこで，どのような方法で調べるか。
・だれに，どのようにして伝えるか。

(3)「まとめ・表現する」段階

・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動を振り返り，見直す。

※　体験活動を適切に位置付ける。
※　言語活動の充実を図る。

指導方法・指導体制の工夫

○教師の適切な指導

・児童の学習状況に応じた適切な指導

○学習形態の工夫

・学校の枠を超えた町単位での取組
・学年の枠を超えた異学年での取組
・課題別グループによる取組
・表現方法別グループによる取組

○指導体制の工夫

・ゲストティーチャーの活用
・TT の活用（担任外教職員との連携）

○学習環境の工夫

・活動内容により場の設定を工夫
・学校図書館の資料の整備・充実
・コンピュータソフトの整備・充実

○評価の工夫

・自己評価，相互評価

※　海洋教育における評価方法の工夫改善を図る。

令和５年度　ゆんぬ学（海洋教育）年間指導計画

学年／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 伝統文化 国際理解	**☆身近にある自然環境と文化**　「ユンヌのひみつさがし」 「ユンヌたんけんたい」 **（★海洋教育 25 時間）** ○ユンヌのいいとろはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。（一日遠足） ○ユンヌのひみつを紹介しよう。 「海と島の人々」 （20 時間） ○町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織に学ぶ。 ○発表会を開こう。 「教えて，ウプ・パーパー」 （25 時間） ○与論の昔のこと ○ウプ・パーパーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。											
4年 環境 町づくり ものづくり	**☆身近な自然環境と島の人々，姉妹校による他地域とのつながり** 「海からのおくりもの」**（★海洋教育 44 時間）** ○　与論の海に親しもう。 ○　海の生き物を調べよう。 ○　海の中はどうなっているのかな。（グラスボート） ○　海岸の漂着物で何かできないかな。 ○　商品を開発してバザーに出店しよう。 ○　島の人々を応援しよう。（ポスター作成） **わたしたちの生活と他地域とのつながり** 「よろんから世界へ」 （21 時間） ○ミコノス島と与論島 ○鹿児島県と深い関係のある国々や地域について調べよう。 ○ガイドブックを作って紹介しよう。											
5年 環境 食 伝統文化	**☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題**　**（★海洋教育 61 時間）** 「ユンヌの海とわたしたち」　51 時間 ○　与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ○　与論の海を守ろう～情報の収集～ ○　与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ ○　学んだことを発信しよう 5月　プール開き（1 時間）・水泳（1 時間） 6月　コース見極め（1 時間）・検定（1 時間）・遠泳大会（3 時間）　10 時間 7月　水泳記録会練習（2 時間）・着衣水泳（1 時間）											
6年 町づくり キャリア	**☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織**　**（★海洋教育 65 時間）** 「ヨロンのタカラ探し！！」　55 時間 ○　修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ，まとめる。（興味・関心） ○　与論のよさを考え，課題を決め，探究の計画を立てる。（課題の設定） ○　グループのテーマに沿って調べる。（情報の収集） ○　中間発表を行い，プレゼン大会（ヨロン海洋教育フェア）へ向けた計画を立てる。（整理・分析） ○　中間発表での課題をもとに，発表の準備をする。（課題の追求） ○　ヨロン海洋教育フェアで発表する。（まとめ・表現） ○　（えひめＡ１散布（１時間）） 5月　プール開き（1 時間）・水泳（2 時間） 6月　コース見極め（1 時間）・検定（1 時間）・遠泳大会（3 時間）　11 時間 7月　水泳記録会練習（2 時間）・着衣水泳（1 時間）											

令和5年度 海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画

与論町立那間小学校

<与論町海洋教育の目標>
海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して，「島だちの力」を身に付ける。

<学校の教育目標>
確かな学力と豊かな心をもち，心身ともにたくましい那間小の子どもを育成する

<海洋教育の目標>
○ 与論の海と人に関心をもち，主体的に課題を解決できる子どもを育てる。
○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら，協働して学習を進め，自分の考えを豊かに表現し，自らの生活のあり方を考える子どもを育てる。

<島だちの力>
（島立ち）与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
（島発ち）与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
（島建ち）与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。

<他教科の関連>
① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ
② 学習内容でつなぐ
③ 指導方法でつなぐ

海洋教育を通して育みたい能力と態度	
情報収集・判断	与論島の海とくらしに関して適切な情報を収集し，総合的に判断する能力
対話	与論島の海とくらしの諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力
問題解決	与論島の海とくらしの諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力
持続的利用	与論島の海の恵みや与論に生きる人々を持続的に活用できる能力
主体	与論島の海やくらしの諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度
継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう与論島の海やくらしに関する知識や技能を継続的に学習する態度
関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度
感動	海や人に親しみ，大切にする態度

<地域との連携>
○各種教育施設や社会教育機関団体等との連携
○地域の教材や学習環境の積極的な活用
○与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよろん・ヨロン SC・誇れるふるさとネットワーク等との連携

教材の工夫

○地域の教育資源活用
・地域の人，物，事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材，行事等の学習素材を調査し整備する。
・総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。
○教材化の視点
・教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。
・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。
※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。

問題解決的な学習における学習過程

(1)「課題をつかむ」段階
・教科学習の発展として
・行事等への主体的な関わりから
・生活の中の気付きから
・様々な体験から
(2)「計画・追究する」段階
・どこで，どのような方法で調べるか。
・だれに，どのようにして伝えるか。
(3)「まとめ・表現する」段階
・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動を振り返り，見直す。

※ 体験活動を適切に位置付ける。
※ 言語活動の充実を図る。

指導方法・指導体制の工夫

○教師の適切な指導
・児童の学習状況に応じた適切な指導
○学習形態の工夫
・学校の枠を超えた町単位での取組
・学年の枠を超えた異学年での取組
・課題別グループによる取組
・表現方法別グループによる取組
○指導体制の工夫
・ゲストティーチャーの活用
・TT の活用（担任外教職員との連携）
○学習環境の工夫
・活動内容により場の設定を工夫
・学校図書館の資料の整備・充実
・コンピュータソフトの整備・充実
○評価の工夫
・自己評価，相互評価

３年生　ユンヌのじまん（３０時間）　他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会 人権集会	校内水泳大会 終業式	始業式 運動会		ユンヌフトゥバ学習 校内人権週間 学習発表会 音楽発表会	終業式	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○ゆんぬのいいところはどんなところ?② 【親・知】	○じまんをさがしに自然に出かけよう③ 【親・知】	○じまんをさがしに海に出かけよう⑦ 【親・知】		○じまんをさがしに島をめぐろう⑧ 【親・知】				○ユンヌのじまんを見つけて、『ユンヌじまん大会』をしよう⑩ 【親・知】		
他教科との関連		・市の様子（社） ・チョウを育てよう（理）	・全体と中心（国） ・引用するとき（国） ・まいごのかぎ（国） ・ふろしき（道）	・農家の仕事（社） ・表とグラフ（算） ・ごめんね、サルビアさん（道）		・科学読み物での調べ方（国） ・「おもてなし」ってなあに（道）					・しりょうの活用（算）

※　海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】　・・・　海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】　・・・　海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】　・・・　海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・　水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※　島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち　・・・　与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち　・・・　与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち　・・・　与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

４年生　ユンヌの海の魅力（３１時間）　他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会 人権集会	校内水泳大会 終業式	始業式 運動会		ユンヌフトゥバ学習 校内人権週間 学習発表会 音楽発表会	終業式	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○海や生物の不思議について調べよう⑩ 【親・知】		○遠泳大会③ 【親】		○貝殻や漂着物を集めよう④ 【親・知】 ○マリンスポーツを楽しもう⑤【親・知】		○貝殻や漂着物を使って製作しよう④【親・知】		○調べたことを発表しよう。⑤ 【知・守】		
他教科との関連		・考えと例（国） ・水はどこから（社） ・小さな草たちにはく手を（道）	・要約するとき（国） ・ごみの処理と利用（社） ・雨水のゆくえと地面のようす（理）	・自然のなかの水のすがた（理）	・地震からくらしを守る（社） ・しりょうの整理（算）	・百科事典の使い方（国） ・聞かせて，君の声を（道）	・お父さんのじまん（道）	・プラタナスの木（国） ・浮世絵（道）	・ウナギの謎を追って（国）		・しりょうの活用（算）

※　海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】　・・・　海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】　・・・　海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】　・・・　海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・　水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※　島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち　・・・　与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち　・・・　与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち　・・・　与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

5年生　ユンヌの海と環境（４３時間）　他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会 人権集会	校内水泳大会 終業式	始業式 運動会		ユンヌフトゥバ学習 校内人権週間 学習発表会 音楽発表会	終業式	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○与論の海の今を知ろう～課題設定～⑬【親・知】		○遠泳大会③【親】	○与論の海を守ろう～情報収集，整理・分析～⑬【知・守】					○学んだことを発信し，学びを振り返ろう。～まとめ・表現～⑭【守・利】		
他教科との関連	・世界の中の国土（社）	・原因と結果（国）	・目的に応じて引用するとき（国） ・ひとふみ十年（道） ・美しい夢―ゆめぴりかー（道）		・水産業のさかんな地域（社） ・和太鼓調べ（道）		・統計資料の読み方（国） ・グラフや表を用いて書こう（国） ・流れる水のはたらき（理）			・自然災害を防ぐ（社）	

※　海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】　・・・　海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】　・・・　海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】　・・・　海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・　水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※　島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち　・・・　与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち　・・・　与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち　・・・　与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

6年生　ユンヌの「誇り」発信（４０時間）　他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会 人権集会	校内水泳大会 終業式	始業式 運動会		ユンヌフトゥバ学習 校内人権週間 学習発表会 音楽発表会	終業式	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○「景観」について知ろう～課題設定～④【親・知】	○実際に校区を歩いて，地形・土地利用の様子を調査しよう⑨　～情報収集～【親・知】	○遠泳大会③【親】			○那間の景観を写真撮影しよう～情報収集，整理・分析～⑧【知・守】	○未来に残したい那間の「景観」発表　～まとめ・表現～⑩【知・守】			○景観を残すためにできることを考えよう⑥～まとめ・表現～【守・利】	
他教科との関連		・主張と事例（国）	・情報と情報をつなげて伝えるとき（国） ・ぼくのお茶体験（道）	・生き物のくらしと環境（理） ・緑の闘士―ワンガリ・マータイ―（道）		・調べた情報の用い方（国） ・天下の名城をよみがえらせる―姫路城―（道）			・資料の整理（算） ・データの活用（算）	・地球に生きる（理）	・世界の未来と日本の役割（社）

※　海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】　・・・　海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】　・・・　海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】　・・・　海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・　水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※　島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち　・・・　与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち　・・・　与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち　・・・　与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

海洋教育科「ゆんぬ学」 全体計画（令和5年度）

関係法規等
・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領

学校教育目標
未来の創り手となる生徒の夢実現に向けて，
確かな学力と豊かな心を育てる。

生徒の実態
優しく何事にも素直に取り組むが，主体的な姿勢や表現力，粘り強さに欠ける面がある。

家庭,地域の願い
学力の向上 ・ 心の教育
島に誇りをもち，島外でも，自立し打たれ強く生きるとともに，自分の意見や思いを表現できる人になってほしい

めざす学校像
1 生徒と職員が目標を持ち，生き生きと活動する学校
2 生徒が自覚をもって登校し,自信をもって下校する学校
3 整然と整備され,清潔で美しい学校
4 保護者や地域に信頼され,心のよりどころとなる学校

目指す生徒像
1 元気な挨拶，明るい笑顔，「はい」という返事，自分の考えを伝えられる生徒
2 目標をもって意欲的に学習する生徒
3 与論に誇りをもつ生徒
4 自尊感情をもち，仲間を尊重する活力あふれる生徒

めざす職員像
1 常に学び続ける職員
2 教育への使命感をもち、自ら燃え,情熱を傾ける職員
3 チームとして生徒一人一人を育てる職員
4 保護者や地域に愛され,信頼される職員

「島だち」後の社会を生き抜く力の育成

海洋教育で育成する資質・能力

【島立ち】
与論島に生きる人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，粘り強くしなやかに探究する心を育てる。

【島発ち】
与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成する。

【島建ち】
与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。

海洋教育の目標
海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して「島だちの力」を身に付ける。

海と人との共生に係る見方・考え方

海と人に親しむ	海と人をつなげる	海と人を守る	海と人を生かす
与論の海や与論に生きる人々の魅力を，豊かな感受性をもって捉える	海に囲まれた与論の自然や文化と，そこに生きる人々とのくらしを関連付ける	与論の海の環境保全や，離島である与論のくらしの持続について考える	与論の海や与論に生きる人々を，よりよい未来を創造するための資源として捉える

各学年の重点目標及び主な活動、指導内容

1学年【広げる】	2学年【絞る】	3学年【深める】	特別支援学級【感じる】
郷土に関する講話や地域の特色をいかした体験活動を通して，与論島に関する知識を広げ，主体的に学ぶ力の基盤を培う。	1学年で体験や見聞したことなどから，自分なりに与論島の強みや課題を絞り，わかりやすく伝えられるように，表現力を高める。	2学年で見つけた問いに対する自分なりの解決策を考えるなど課題を深め，レポートにすることで郷土の発展に寄与しようとする態度を育てる。	海の素晴らしさに感動する態度を育み，安全に海に親しむ方法を学ぶ。
活動例・指導内容 ・集団体験学習での海に関する講話，海でのマリンスポーツ，安全に関する講話 ・郷土学習や修学旅行事前学習(口之津移住に関する史実の理解等) ・ユンヌフトゥバ学習	活動例・指導内容 ・与論島に関する講話・見学 ・修学旅行(大牟田・荒尾地区与論会との交流等) ・ユンヌフトゥバ学習 ・伝統芸能体験 ・ミニレポート作成 ・与論町海洋教育フェア	活動例・指導内容 ・職場体験学習 ・ユンヌフトゥバ学習 ・海洋教育のまとめレポートの作成	活動例・指導内容 ・該当学年での総合的な学習における活動への参加

各教科
教科の目標の中に「育成すべき力と態度」を見いだして，その向上に努める。(例：国語や英語の対話力など)教科の学習を通して，与論の海や海を通した世界とのつながりについて考える契機とする。また将来の生活に必要な知識や技能を習得させ,生涯にわたって学習する喜びを見出させる。

道徳
人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成する。自己が属する様々な集団の意義について理解を深め，役割と責任を自覚し，集団生活の向上に努める。勤労の尊さや意義を理解するとともに，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。
「郷土の先人」，「不屈の心」，「与論のことわざ」等を活用し，郷土の伝統と文化を尊重し，郷土を愛する態度を育成する。

総合的な学習の時間・「ゆんぬ学」
探究的な見方・考え方を働かせ，課題を発見し，よりよく課題を解決しようとしたり，自分の生き方を探ろうとしたりする資質・能力を育成する。
探究的な学習の過程で，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，地域の良さに気付かせる。課題解決に向けて，調査したり，考察したりする力とともに，考えたことを根拠をもとに表現する力を育成する。主体的・協働的に学習に取り組み，地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。

特別活動
人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。学校行事では，「集団体験学習」，「修学旅行」，「文化祭」などの行事で「育成すべき力と態度」を育てることを意識した指導を実践していく。

その他の活動
朝読書の活動や給食指導，保健指導，生徒会活動等あらゆる教育活動の中で「育成すべき力と態度」を見いだして，その能力・態度の向上に努める。(例：朝読書の中での情報収集・判断力の育成など)
進路指導においても島だちを見据えた指導を行い,高等学校卒業後に自立した生活を送れるよう郷土に誇りをもち，その良さを発信できる対話力を高めていく指導を実践していく。

海洋教育科「ゆんぬ学」 年間指導計画　　令和5年度

第１学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	14	オリエンテーション	
	2		25	集団体験学習に向けて①	
	3	5	2	集団体験学習に向けて②	
	4		16	集団体験学習に向けて③④	19 22
	5				
	6		24	集団体験学習事前指導	
	7		25	トークフォークダンス 与論町の良さや課題を知る	
	8			海洋汚染に関して	4
	9				
	10		26	マリンアクティビティ体験 及び安全確保の基礎知識	6
	11				
	12		30	講義「インタビューとは」 与論の良さや課題を知る	
	13	6	12	与論の良さや課題を知る①(教相)	
	14		13	与論の良さや課題を知る②(教相)	
	15		14	与論の良さや課題を知る③(教相)	
	16		15	与論の良さや課題を知る④(教相)	
	17	7	4	着衣水泳	8
	18				
二学期	19	9	13	文化祭に向けて(表現活動①)	
	20		20	表現活動②	
	21		26	表現活動③	
	22	10	4	表現活動④⑤	
	23				
	24		17	選択制郷土学習	
	25				
	26		18	選択制郷土学習のまとめ	
	27		24	表現活動⑥⑦	
	28				
	29		26	表現活動⑧⑨(リハーサル)	
	30				
	31		30	表現活動⑩⑪	
	32				
	33	11	1	表現活動発表(文化祭)	
	34				
三学期	35	1	24	名刺づくり(インタビュー)	
	36		31	名刺づくり(実践) 編集・デザイン活動	
	37				
	38	2	13	ユンヌフトゥバ学習	11
	39				
	40		27	口之津，大牟田移住の歴史に学ぶ	
	41	3	5	1年間のまとめ	

第２学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	14	オリエンテーション	
	2	6	1	与論の産業等に関する講話 ～自分の問いを見つける～ インタビュー実践	20 21
	3				
	4		12	与論に関するミニレポート作成①(教相)	
	5		13	与論に関するミニレポート作成②(教相)	
	6		14	与論に関するミニレポート作成③(教相)	
	7		15	与論に関するミニレポート作成④(教相)	
	8	7	4	着衣水泳	8
	9				
	10		5	インタビュー：中間フィードバック 課題を共有する	1
	11				
	12		11	与論に関するミニレポート作成⑤	
	13		12	与論に関するミニレポート作成⑥	
	14		18	与論に関するミニレポート作成⑦	
二学期	15	9	5	与論に関するミニレポート作成⑧	
	16		13	与論に関するミニレポート作成⑨	
	17		19	文化祭に向けて	
	18		20	伝統芸能体験①②	
	19				
	20		26	十五夜踊り講話	
	21		29	十五夜踊り見学	
	22	10	11	伝統芸能体験③④	
	23				
	24		18	伝統芸能体験⑤⑥	
	25				
	26		25	伝統芸能体験⑦⑧	
	27				
	28		26	伝統芸能体験⑨⑩(リハーサル)	
	29				
	30		30	伝統芸能体験⑪⑫	
	31				
	32	11	1	伝統芸能発表(文化祭)	
	33				
	34		21	ユンヌフトゥバ学習	11
	35				
	36		28	与論に関するミニレポート作成⑪	
	37	12	6	発表に向けた資料作成①	
三学期	38	1	9	発表に向けた資料作成②	
	39		10	発表に向けた資料作成③ (地域サポのフィードバック)	
	40		13	ミニレポート発表会	
	41				
	42		30	ヨロン海洋教育フェア	
	43				
	44	2	6	職業ガイダンス	
	46		20	職場体験学習に向けて①	
	47		27	職場体験学習に向けて② (職業図鑑作成に向けて)	
	48	3	5	1年間のまとめ	

第３学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	14	オリエンテーション	
	2		19	職場体験学習に向けて① (職業図鑑作成に向けて)	
	3		26	職場体験学習に向けて②	
	4	5	11	職場体験学習に向けて③	
	5		18	職場体験学習に向けて④	
	6		23	職場体験学習事前指導	
	7		24	職場体験学習1日目	
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13		25	職場体験学習2日目	
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19		26	職場体験学習3日目	
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25		31	職場体験学習まとめ① (職業図鑑づくり)	
	26				
	27	6	12	職場体験学習まとめ②(教育相談)	
	28		13	職場体験学習まとめ③(教育相談)	
	29		14	職場体験学習まとめ④(教育相談)	
	30		15	職場体験学習まとめ⑤(教育相談)	
	31	7	4	着衣水泳	8
	32				
	33		11	ユンヌフトゥバ学習	
	34				
	35		18	与論の現状や課題レポート作成に向けて①	
二学期	36	11	8	与論の現状や課題レポート作成に向けて②	
	37		15	与論に関する課題レポート作成①	
	38		21	与論に関する課題レポート作成②	
	39		22	与論に関する課題レポート作成③	
	40		28	与論に関する課題レポート作成④	
	41		29	与論に関する課題レポート作成⑤	
	42	12	5	与論に関する課題レポート作成⑥	
	43		12	1年間のまとめ	

※「地域」の欄は，海洋教育地域サポータープログラム授業の登録番号です。
このプログラム内容は，職員室後方「ゆんぬ学」の棚に保管しています。
このプログラムに関する講師謝金が発生する場合(一人2，000円)は，海洋教育費から支出します。

総合的な探究の時間「ゆんぬ」全体計画

与論高等学校

「総合的な探究の時間」の目標

探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，より良く課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意味や価値を理解するようにする。
（知識及び技能）

(2) 実社会や実生活と自己の関わりから問いを見い出し，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。
（思考力，判断力，表現力等）

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むと共に，互いの良さを生かしながら，新たな価値を創造し，より良い社会を実現しようとする態度を養う。
（学びに向かう力，人間性等）

学校の教育目標

憲法，教育基本法の精神にのっとり，「好学の気風」「創造の精神」「親和の態度」「不屈の根性」の校訓のもと，知・徳・体の調和のとれた心身共に健康で豊かな人間形成を目指し，わが国の文化と伝統を尊重する態度と国家・社会の進展に寄与できる有為な人材を育成する。

重点目標

予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する。

年度の重点

海洋教育を柱とする地域における諸課題を発見し，協働して解決する資質・能力を養う。

地域・社会の実態

地域住民の教育への関心は高い。
昨年度までの海洋教育パイオニアスクールプログラムの内容を引き継ぎ，与論町海洋教育推進協議会や地域のサポーターから支援や指導が受けやすい環境にある。

各学校において定める目標

(1) 学校と地域との連携を深める中で，郷土理解を深め，郷土における課題を発見し解決しようとする過程を通して郷土の発展に貢献しようとする態度を育成する。
(2) 国際理解，情報，環境，福祉，健康など，現代的・総合的な課題について，中高一貫教育の前期3年間における中学校での取組を発展進化させながら，これらの課題に適切に対応できる能力を育成する。
(3) キャリア学習を通して自己の在り方・生き方について主体的に考えることができる能力を育成する。

学校・課程・学科の実態

島内唯一の高等学校であり，島内の中学生の多くが中高一貫入試を経て，入学してくる。
本校設置学科は普通科のみであり，2年次から主に就職・専門学校等進学を目指す総合コースと，主に大学進学を目指す文理コースに分かれている。

保護者・教職員の願い

自らの進路や自分と未来との関わりを意識し，自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。
卒業後島外に出る生徒がほとんどであるため，社会の一員として必要な基本的生活習慣と社会規範を身に付けさせる。

育成を目指す資質・能力等

〈探究課題の解決を通し育成を目指す資質・能力〉

(1)知識及び技能

課題の発見と解決に必要な知識及び技能を習得する。
探究の意義や価値，具体的な探究の手法を理解する。

(2)思考力・判断力・表現力等

地域と自己の関わりから問いを見いだし，自ら課題を設定することができる。
設定した課題の探究のための情報の収集，整理分析を行い，それらを適切にまとめ，表現することができる。

(3)学びに向かう力,人間性等

設定した課題の探究に向けて，主体的に取り組もうとする。
自己と他者を互いに尊重して適切な関係を構築し，協働的に探究活動に取り組もうとする。

〈教科・科目等を超えた全ての学習の基礎となる資質・能力〉

(1)情報活用能力

学習課題に関する情報を幅広く収集し，整理，分析して目的に応じて情報を活用することができる。

(2)言語能力

自分の考えをまとめ，的確に表現することができる。

考えるための技法の活用

グループ活動
ディスカッション
フィールドワーク
ワールドカフェ
マッピング
JK法

各学校において定める内容

学習課題（領域）	探究課題（具体的内容）
現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（環境）	与論島が抱えている自然環境問題と，グローバルな環境問題
地域や学校の特色に応じた課題	与論島の海を取り巻く環境問題 地域の農業や特産品の現状と課題 地域の伝統や文化と，その継承についての諸問題
職業や自己の進路に関する課題	職業の選択と社会貢献及び自己実現 働くことの意味や価値と社会的責任

各教科・科目との連携

地域を触媒とした総合的な探究と教科・科目等との双方向による連携を行う。

小・中学校，大学，高等学校間での連携

連携型中高一貫校として，6年間を見通したキャリア教育を行う。

学習活動

1年次はグループ活動，2年次は個人での活動を中心として，地域の課題等をもとにテーマを設定し，フィールドワーク等の活動を実施する。また，中間発表や最終発表を実施し，活動の報告や振り返りができるようにする。
3年次については，2年次までの活動を基に，各自の探究活動の成果を研究紀要としてまとめる。

指導方法

- グループ活動を中心とした協働的な活動の充実
- 教科・科目等との関連性を重視した指導の充実
- 発表会等において自分の考えを表現するための環境の充実

学習の評価

複数の評価チームでの評価
ポスター，スライド，研究要項等の成果物
ポートフォリオを活用した評価の充実

指導体制

- 校務分掌の中に「総合的な探究」の係を設置し，指導方法の検討・改善・充実を行う。
- 各学年部所属の職員全員で計画的な指導を実施する。
- 教材については，目標を達成できるように，係を中心として学校全体で準備する。

<高校卒業時までに>「継続した探究活動」

・海洋に関する広範な知識をもとに，地域内・外の人と連携しながら，課題解決のため 計画・立案・実行する。その過程で，社会評価を受け，改善や再考することを通し，自己の学びを深めることができる。

与論高等学校

第１学年

	月	日	時数	タイトル	内容	高校　確認事項	事務局（地域）
1学期	4	14		オリエンテーション	目的・意義について，年間計画	調べ学習と課題研究の違いを学ぶ	
		21	③	中学校の振り返り	「問い」とはなにか　身の回りから		
		28		中学校の振り返り	「問い」をたてよう　新聞から		
	5	5		こどもの日			
		12		探究シンポジウム	課題研究の楽しさ		
		12	④	探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」	ゼミの紹介	
		19		中学校の振り返り	ヨロンについてもっと情報を集めるには	ゼミ相談会	
		26		中学校の振り返り	「問い」を決めよう		
	6	2		探究スタート	「問い」の答えを予測してみよう	ゼミ①初回	
		9		体育祭予行（終日）			
		16	③	探究スタート	自分たちの考えをシェアしよう		
		23		島のしごとフェア			
		30		探究スタート	今年のテーマを決定しよう（グループの再設定）		
	7	7		探究スタート	グループで話し合い，メインテーマを決める		
		14	②	フィールドワーク	目的，内容，訪問地，インタビュー先等を話し合う		7/19火曜　候補日 7/20水曜　終業日 7/21木曜　が候補日
		21		フィールドワーク	計画を立てよう	ゼミ②　午前	
		28		フィールドワーク	計画を完成させよう		
2学期	8						
		21		フィールドワーク	集めた情報をシェアする	ゼミ③ 午前	
	9	1		文化祭準備			
		8		中間ワークショッププレ	①理由②現状③問い④仮説を紙芝居形式でまとめよう		
		15	⑤	中間ワークショッププレ	①理由②現状③問い④仮説を紙芝居形式でまとめよう	ゼミ④	
		22		中間ワークショッププレ	①理由②現状③問い④仮説を紙芝居形式でまとめよう		
		29		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう	参加	他人へのお披露 生徒同士もサポ　も
		29		中間ワークショップ	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」	参加	
	10	6		中間ワークショップポスト	何が足りないのか，自己評価をしよう	ゼミ⑤	
		13	④	研究をまとめる	スライドの作り方		
		20		研究をまとめる	スライドにまとめよう（表紙・目次・研究背景）		
		27		研究をまとめる	スライドにまとめよう（研究の目的・意義）		
	11	3		文化の日			
		10		研究をまとめる	スライドにまとめよう（研究方法）		
		17	③	研究をまとめる	スライドにまとめよう（結果・考察）	ゼミ⑥	
		24		研究をまとめる	スライドにまとめよう（結論・展望・引用文献・参考文献）		
	12	1		研究をまとめる	発表練習		
		8		研究をまとめる	発表練習	ゼミ⑦	
		15		校内発表会	オーラルプレゼンテーションをしよう		
		15	④	校内発表会	２年生のポスター発表に参加しよう		
		22		終業式	終業式		
		25		校内発表会ポスト	振り返りシートとコメントから今までの自己評価をしよう	ゼミ⑧	
		29		閉庁日	閉庁日		
3学期	1	5					
		12		校内発表会ポスト	新たな問いを確認する	ゼミ⑨	
		19	⑤	探究スタート	テーマを設定しよう		
		26		探究スタート	テーマを設定しよう（先行研究や事例から現状把握）		
		30		海洋教育フェア			
		30		海洋教育フェア			
	2	2		（自宅学習）			
		9	①	ロードレース			
		16		探究スタート	多くの問いからリサーチクエスチョンを導こう	ゼミ⑩	
		23		天皇誕生日			
	3	1		（自宅学習）			
		8		探究スタート	みんなでリサーチクエスチョンをシェアしよう		
		15	③	探究スタート	課題研究計画書を完成させ，年間自己評価をしよう		
		22		探究スタート	２年生の学年発表に参加しよう		
		29		春休み			

研究テーマの設定について学ぶ

データの収集方法について学ぶ

フィールドワーク

スライドを使ったプレゼンテーションを学ぼう

問いからリサーチクエスチョンを導く方法を学ぶ

データの収集方法について学ぶ

与論高等学校

第２学年

	月	日	時数	タイトル	内容	高校　確認事項	事務局（地域）
1学期	4	14		オリエンテーション	新たな問いを確認する		
		21	③	探究スタート	テーマを設定しよう		
		28		探究スタート	テーマを設定しよう		
	5	5		こどもの日			
		12		探究シンポジウム	課題研究の楽しさ		
		12	④	探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
		19		研究スタート	問いを集めよう（先行研究や事例から現状把握）		
		26		研究スタート	問いを集めよう（先行研究や事例から現状把握）		
	6	2		探究スタート	問いを集めよう（先行研究や事例から現状把握）		
		9		体育祭予行（終日）			
		16	③	探究スタート	問いからリサーチクエスチョンを導く		
		23		島のしごとフェア			
		30		探究スタート	問いからリサーチクエスチョンを導く（再）		
	7	7		研究スタート	どの研究方法を行うか		
		14		研究スタート	どの研究方法を行うか		
		21	②	研究スタート	フィールドワークの計画を完成させよう		
		28		研究スタート	フィールドワークのアポイントをとろう		
2学期	8			フィールドワーク			
		21		研究スタート	集めた情報をシェアする		
	9	1		文化祭準備			
		8		中間ワークショッププレ	①分析②仮説の検証を紙芝居形式でまとめよう		
		15		中間ワークショッププレ	①分析②仮説の検証を紙芝居形式でまとめよう		
		22	⑤	中間ワークショッププレ	①分析②仮説の検証を紙芝居形式でまとめよう		
		29		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう		
		29		中間ワークショップ	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
	10	6		中間ワークショップポスト	何が足りないのか，自己評価をしよう		
		13		研究をまとめる	ポスターの作り方		
		20	④	研究をまとめる	ポスターにまとめよう（表紙・目次・研究背景）		
		27		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（研究の目的・意義）		
	11	3		文化の日			
		10		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（研究方法・結果・考察）		
		17	③	研究をまとめる	ポスターにまとめよう（結論・展望・引用文献・参考文献）	ゼミ⑥	
		24		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（最終確認→印刷）		
	12	1		修学旅行			11/27から修学旅行
		8		研究をまとめる	発表練習	ゼミ⑦	
		15		校内発表会	１年生のオーラルプレゼンテーションに参加しよう		
		15	④	校内発表会	ポスター発表をしよう		
		22		終業式	終業式		
		25		校内発表会ポスト	振り返りシートとコメントから今までの自己評価をしよう	ゼミ⑧	
		29		閉庁日	閉庁日		
3学期	1	5					
		12		校内発表会ポスト	校内発表会から課題を見つけよう	ゼミ⑨	
		19		研究の深化	現状把握から結論まで流れを確認しよう		
		26	⑤	研究の深化	論拠を中心に論の進め方が正しいか確認しよう		
		30		海洋教育フェア			
		30		海洋教育フェア			
	2	2		（自宅学習）			
		9		ロードレース			
		16	①	研究の深化	修正した箇所を地域サポーターや先生と確認しよう	ゼミ⑩	
		23		天皇誕生日			
	3	1		（自宅学習）			
		8		研究の深化	修正したポスターを提出しよう		
		15	②	研究の深化	課題研究計画書を完成させ，年間自己評価をしよう		
		22		研究の深化	２年生の学年発表をしよう		
		29		春休み			

リサーチクエスチョンの設定を学ぶ

研究テーマの設定について学ぶ

研究方法を学ぶ

ポスターブレゼンテーションを学ぼう

課題研究のまとめ方を学ぶ

論拠の大切さについて学ぶ

与論高等学校

第３学年

	月	日	時数	タイトル	内容	高校　確認事項	事務局（地域）
1学期	4	14		オリエンテーション	研究要綱について説明	研究論文の書き方について学ぶ	
		21	③	要綱/論文執筆	研究要綱/研究論文の構成を理解しよう		
		28		要綱/論文執筆	研究背景		
	5	5		こどもの日			
		12		要綱/論文執筆	研究目的・意義		
		12	④	探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
		19		要綱/論文執筆	研究方法		
		26		要綱/論文執筆	結果・考察		
	6	2		要綱/論文執筆	結論・展望		
		9		体育祭予行（終日）			
		16	③	要綱/論文執筆	引用文献・参考文献・付属資料		
		23		島のしごとフェア			
		30		要綱/論文執筆	全体のチェック（要旨・体裁・文献）		
	7	7		学年発表会			
		14	②	学年発表会			
2学期	8						
	9	1		文化祭準備			
		8		課題研究			
		15		課題研究			
		22	⑤	課題研究			
		29		課題研究			
		29		中間ワークショップ	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
	10	6		課題研究			
		13		課題研究			
		20	④	課題研究			
		27		課題研究			
	11	3		文化の日			
		10		課題研究			
		17	③	課題研究			
		24		課題研究			
	12	1		修学旅行			
		8		課題研究			
		15		校内発表会	１年生のオーラルプレゼンテーションに参加しよう		
		15	③	校内発表会	２年生のポスター発表に参加しよう		
		22		終業式	終業式		
		29		閉庁日	閉庁日		
3学期	1	5					
		12		課題研究			
		19	③	課題研究			
		26		課題研究			
	2	2		（自宅学習）			
		9	①	ロードレース			
		16		課題研究			

2023 年度　各校での学習指導案

与 論 小 学 校
茶 花 小 学 校
那 間 小 学 校
与 論 中 学 校
与論高等学校

与論町立与論小学校　学習指導案

単元名	オリエンテーション	学期／時数	1学期／②
ねらい	○　総合的な学習の時間について知る ○　自分の取り組んでみたいことをみんなで話し合いながら考える。今後の活動に意欲を持たせる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
4 (2)	1	1 総合的な学習の時間とはどんなものかを知る。	・　おおよそどのような活動をしていくのか説明し，意欲を高める。（昨年度までの他の学年の作品などを提示する。）
	2	1 おおまかな学習計画を立てる。	・　みんなで話し合う中で，これからの学習の大まかな計画を立てる。 ・　記録などのファイルの仕方などについても説明する。

3年

単元名	与論の文化や行事について調べよう	学期／時数	2学期/⑪・3学期/⑨
ねらい	○　与論の文化や行事について調べ，それらが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 ○　与論の文化や行事について調べる活動を通して，ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えることができる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
10 (4)	1	1 与論の文化や行事について話し合う。 2 課題設定をする。	・　昔から伝わる行事にどんなものがあるか話し合わせ，学習意欲を高める。 ・　何について調べたいか考えさせ，ヨロン海洋教育フェアで発表をするを知らせ，調べたことはスライドにまとめることを視野に入れて学習計画を立てさせる。
11 (2)	2～9	1　与論の文化や行事について，グループで調べる。 【例】 浜下り，豊年祭（内容），旧正月，島唄，与論の食べ物等が考えられる。 ※十五夜踊り以外	・　インタビューや見学をしたり，図書館の資料や「わたしたちの与論町」，などを活用させたりする。 ・　調べていく中で分かったことは，まとめてファイルさせる。
12 (5)	10～14	1 調べたことをまとめる。 2 発表準備をする。	・　調べて分かったことをグループごとに役割分担をして，スライドにまとめさせる。 ・　2学期中に発表準備（発表原稿など）を終わらせ、1月は校内リハーサルができるようにする。
1 (9)	15～17	1 校内リハーサルをする。 2 砂美地来館でリハーサルをする。 3 海洋サミットに参加する。	・　管理職・海洋教育担当と校内リハーサルを行う。 ・　発表時間を確認する。（R4年度は10分間） ・　ステージの会場準備をした状態でリハーサルができるので，立ち位置などを確認させる。 　他の学校の発表の聞き方なども指導する。
	18～19	1 ヨロン海洋教育フェアで発表をする。	・　発表後には，自分たちの発表振り返りや各学校の発表を見た感想を書かせる。
3 (1)	20	1 学習を振り返る。	・　調べ学習や発表を通して考えたことを発表し合い，ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えさせる。

単元名	与論の恵みの味	学期／時数	1学期／⑦　3学期／⑪
ねらい	○　与論の特産物であるさとうきびを栽培し，黒糖を昔ながらの方法でつくることで，先人の知恵や苦労を体験することができる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
4 (3)	1～3	1　さとうきびについて「どんなイメージをもっているか」考えを出し合う。 2　与論のさとうきびについて調べる。	・　イメージを出し合う際は，ブレーンストーミング法を使い，自由に出し合えるようにする。ブレーンストーミング法の説明も事前に行う。 　事前に，育て方の資料を準備しておく。
5 (2)	4･5	3　きび農家の方をお招きし，さとうきびについて学ぶ。	・農家の方と連絡を取り，日程を調整する。 ・事前に子供たちからの質問をまとめるなど，有意義な時間になるりょうに準備をしておく。
6 (2)	6･7	1　さとうきびの苗を植え，畑を作る。 2　定期的に手入れを行う。	・　除草は，つる性の植物を中心に行わせる。また，まきつくと成長を妨げるという理由を説明する。
1 (3)	8･9	1　きびかりをする。	・　学校農園のきびの量では足りないと思われるので，きびかりをさせてもらえる保護者へ事前に依頼をする。(学級PTAの際にお願いするとよい)
	10～15	1　黒糖づくりをする。	・　民俗村で黒糖づくりをするため，12月ごろには連絡をし，日程を押さえておく。
2 (4)	16･17	1 黒糖を使ったお菓子作りに挑戦する。	・　家庭科の調理実習で学んだことが生かせるように
3 (4)	18	1　学習の振り返りを行う。	・

5年

単元名	与論と修学旅行先のつながりを調べよう		1学期／ ⑭
ねらい	○　沖縄島の歴史や修学旅行で訪れる場所について事前に調べることで，明確な目的意識をもって修学旅行に参加しようとする態度をはぐくむ。 ○　沖縄と与論のつながりや似ている部分、違うところなどを体験的に学び、今後の生活にいかしたり、これからの与論島発展にいかしたりする態度を養う。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
4 (4)	1	1　修学旅行の行程を知り，修学旅行で楽しみなことを発表し合う。 2　沖縄について知っていることを出し合う。	・　沖縄について知っていることを付箋に自由に書き出させ，まとまりごとにネーミングをつけて，視覚的に理解しやすいようにする。ジャムボートを活用してもよい。
	2-3	1　沖縄の歴史や文化，訪問する施設等について班分けをして，情報を収集し，まとめる。	・　図書室や町立図書館にある活用できる本を事前に司書の先生にお願いして準備をしていただく。 ・　タブレットPCも活用して調べる。
	4	1　グループごとに発表し，感想を伝え合う。	・　それぞれの班が調べたことを聞くことで、情報を共有し、修学旅行への意欲を高めたり、学ぶという目的意識をもたせる。
5 (4)	5－8	1　自主研修の計画を立てる。	・　自主研修の計画を立てる際は，タイムテーブルをつくりやすいようワークシート(しおり)を準備する。 ・　そこへ行って何をしたいのか(学びたいのか)といった理由が明確になるようまとめさせる。
6 (3)	9－10	1　自主研修を行う。	・　修学旅行先で自主研修を行う。
	11-12	1　修学旅行についての振り返る。	・　調べたことと実際に体験したこととの共通点や相違点に焦点化して振り返る。
7 (3)	13-14	1　修学旅行から学んだり感じたりした与論と沖縄の相違点や、今後の与論にいかせそうな点を話し合いまとめる。	・　2学期からの学習につながるように、与論島の未来をよりよいものにするために学んだことをいかせないかという視点で話し合わせる。

6年

小５

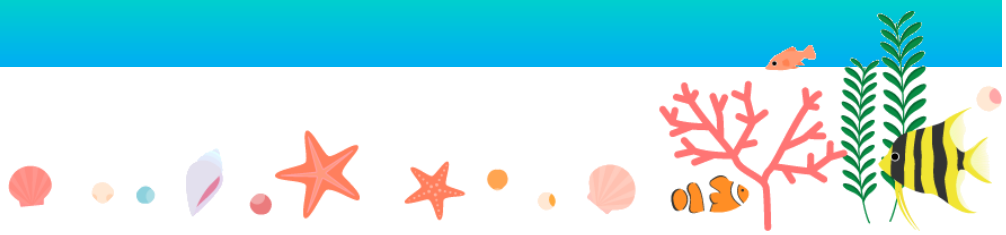
与論町海洋教育　授業実践記録

サンゴ礁に何が おきているのだろう？

実施日：令和５月３１日
実施校：与論町立茶花小学校
対　象：５年生児童
指導者：池田　香菜さん
場　所：茶花小学校

学習のねらい

サンゴとはどのような生き物なのかを理解し、昔のサンゴ礁風景と今を比べることで環境が変化してきたことを学ぶ。現在、サンゴ礁にどのような環境問題が起きているのか知り、サンゴ保全に対する取り組みを学ぶことで、自分たちに出来ることを考えるきっかけを作る。



本授業における「海と人との共生」のための視点

☑ 海に親しむ　☑ 海を知る　☑ 海を守る　□ 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間（分）	学習活動	授業スナップ
導入	15	○　担任の先生の挨拶 ○　今日の流れの説明と講師の紹介 ○　サンゴってなあに？サンゴクイズ ・クイズを通して、楽しみながらサンゴについて知る サンゴがあると何がいいのかな？ キレイ！観光客の人が見に来てくれる	

		魚のすみかになる サンゴ植物の仲間かな？ 動物の仲間かな？ 植物の仲間！ どっちとも！	
展開	70	○　昔と今の与論のサンゴ礁を比べる Powerpoint で写真を投影 ここどこだ！？ 供利港！ ・グループごとに昔と今の違いを話し、 その内容を発表する。 サンゴ礁が少なくなっているような気がする。 昔に比べたら、 サンゴが住む場所が無くなったのかな。 ・実際にサンゴ礁に何が起きているのか解説 サンゴが住む場所が変わったが変わったよね。 人が知らなくて踏んで、折ってしまったってこともあるよね。 地球の気候が変わって、水の温度が変わったのももちろん影響しているよね。 関連して水の深さが変わったのも考えられるよね。	

		― 休憩（10 分） ― ○ 「サンゴ生き残りゲーム」 ・ゲームを使ってサンゴの増減を体感する ○ 現在のサンゴ礁保全の取り組み紹介 ・例）海ゴミ、生活で自然にやさしいものを使う、陸での取り組み：グリーンベルト、植栽	
まとめ	5	○ 感想書く ○ 終わりのあいさつをする	

子供たちの感想から

「日本の海が温かくなって、千葉県でサンゴが見れるってことにびっくりしました。」

「ゲームをしたのが楽しかったです。サンゴの気持ちになれました。」

本授業で高まったと考えられる資質・能力

□ 情報収集・判断　□ 対話　□ 問題解決　□ 持続的利用

☑ 感動　☑ 関係　☑ 主体　□ 継続

ワークシート「サンゴ礁が危ない？今と昔とこれからのサンゴ礁」

サンゴ礁の今を知ろう

日付：　　年　　月　　日

学年：　　名前：

●サンゴってどんな生き物？特徴をまとめてみよう

Q2	Q5	Q8
Q3	Q6	Q9
Q1	Q4	Q7	Q10

●昔のサンゴ礁はどのようでしたか？今とちがうところをまとめてみよう（3つ）

昔のサンゴ礁	今のサンゴ礁
・	・
・	・
・	・

●サンゴ礁はどうして危ない？？サンゴが減っている原因を書いてみよう

●今日の感想・気づきをまとめてみましょう

NPO法人海の再生ネットワークよろん

小５

与論町海洋教育　授業実践記録

私たちの暮らしと水環境

実施日：令和５年７月４日
実施校：与論町立茶花小学校
対　象：５年生児童
指導者：池田　香菜
場　所：茶花小学校、茶花海岸

学習のねらい

与論島の水環境、水の循環について学び、自分たちの暮らしと水の関わりについて考える。

本授業における「海と人との共生」のための視点

☑ 海に親しむ　☑ 海を知る　☑ 海を守る　☐ 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間（分）	学習活動	授業スナップ
導入	25	○　担任の先生の挨拶 ○　今日の流れの説明と講師の紹介 ○　水のお話 地球の水の何%が飲み水になるかな？ 地球の大きさがバスケットボールだとしたら… 海水、陸水の%や飲める水の%を伝える 少な～い びっくり！すくなっ！！	

展開	70	○　与論の水のお話 与論に川はある？ 川はないと思います。 川みたいなのはあると思う。 与論の人が使っている水は どこから来てるのかな？ ・与論の地層 石灰岩と基盤岩でできている 与論に川はないから、 地下水を飲んでることを伝える。 与論の水はどんな水か調べてみよう！ ○　徒歩で茶花海岸へ ・用水路、茶花海岸２箇所で採水 ○　徒歩で学校へ	
まとめ	5	○　ワークシートに感想書く 次回、パッチテストをしてみましょう。 与論の水はどんな水か調べてみましょう。 ○　終わりのあいさつをする。	

子供たちの感想から

「いつも使っている水はとっても貴重なものだと知りました。」
「水を取りに行ったことがとっても楽しかったです。」

本授業で高まったと考えられる資質・能力

□ 情報収集・判断　□ 対話　□ 問題解決　□ 持続的利用

☑ 感動　☑ 関係　☑ 主体　□ 継続

「令和５年　与論町立那間小学校　かごしま景観学習」　授業計画案

１　単元　　那間（ユンヌ）の「魅力」発信

２　指導観

○　ねらい　本単元では，「自分のまちの景観」を教材として取り上げる。活動を通して，自分の地域の景観を守る活動をしている人々の思いを考え，その景観に対する理解を深め，地域の一員として景観を残していこうという意欲を育てる。

○　構　想　・那間小校区（与論島）のお気に入りの景観を探す。
・その場所に行ったり，調べたりする。
・景観を守る活動をしている人々の思いに気付き，自分たちも継承していく必要があることに気付く。
・最後に，景観をよりよくするために自分ができることを考え，実践する。

３　目標

○　景観学習を通して，景観に関わる自分のまちの歴史や人の思いを知ることで，自分のまちへの思いや愛着を深めることができる。

○　よい景観を守るために（よりよくするために），地域の一員として自分にできることを考え，実現に向けた計画を立案し，実践することができる。

４　単元計画

段階	時間	学　習　活　動	教師の支援（○）県の支援（◆）
景観と出会う	２	１　「景観」の意味や景観学習の目的を知り，課題を設定する。 ・景観について話を聞く。 ・那間校区の歴史について学ぶ。 ・那間の景観を通して，その魅力を伝えるために何ができるかを考え，学習計画を立てる。	◆講師派遣（６月） ○地域の歴史や人々の努力があり，景観が守られていることを押さえる。 ○自分たちにできることは何かという視点で課題設定するよう助言する。
景観について調べる	６	２　校区を散策し，景観を探しに出かける。 ・あらかじめ立てた計画に沿って，実際に校区を散策しながら，景観を探す。 ・那間の魅力発信につながる，他の校区にはない那間校区独自の景観はどのようなものか考える。 ・ただの風景撮影にならないように，人々の生活の様子が垣間見える写真を撮影する。	◆講師派遣（11 月） ◆デジカメの貸出 ◆効果的な構図や写真撮影の方法について助言をいただく。 ○なぜ，その景観が那間の魅力発信につながるかを考えさせる。
整理・分	４	３　那間の「魅力」発信につながる景観について調べる。 ・魅力発信につながる理由を出し合い，写真を精選する。	○単元導入を想起させ，自分たちから進んで，校区に関わろうとする意欲を高められるようにする。

析		・景観を守るために，自分たちにできることはないか話し合う。	
まとめ・表現	３	４　調べたことをもとに，那間の魅力を発信する。 ・地域の方を招待して，写真展を開催する。 ・PR のために，ポスターやちらしを自作する。 ・これらの景観を守るためにできることを行動宣言としてまとめ，実践する。	◆講師派遣（２月） ◆自分たちの学習成果を効果的に表現する方法について助言をいただく。

小４

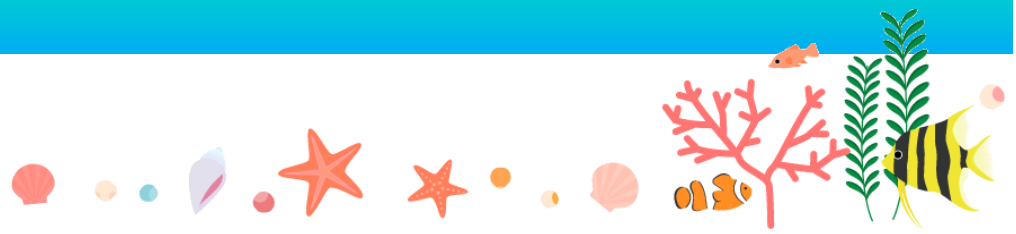
与論町海洋教育　授業実践記録

海のふしぎを知ろう

実施日：令和５年 10 月６日(金)
9:25～11:40
実施校：与論町立那間小学校
対　象：４年生児童１０名
指導者：鈴木　美紀さん
場　所：ゆんぬ体験館

学習のねらい

与論島は海に囲まれた島で，海は子供たちにとって身近な自然そのものです。「シーグラスって何？」というテーマを設定し，海に親しみを持ち、興味を持つきっかけとします。



本授業における「海と人との共生」のための視点

☑ 海に親しむ　☑ 海を知る　□ 海を守る　□ 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間（分）	学習活動	授業スナップ
導入	30	○　はじめのあいさつをし，本時の学習のねらいについて，担任の先生の説明を聞く。 ○　鈴木さんの自己紹介を聞く。 ○　「シーグラスとは何か？」という問いに対して、自分の体験からシーグラス、海について考えをめぐらせる。 シーグラスを拾った時どうだった？ ぬれているいる時は透明だった。 色々な色、形があったよ。	

		○　「シーグラスとは何か」 ・どこから来て、どのようにしてできるのか ・ビーチマネーについて シーグラスは、 もともとガラス製品だったよね。 割れたガラスは川、海で岩、ゴツゴツ、波に飲まれて”角”が取れてこの形になりました。	
展開	105	○　シーグラスに触れてみる。 ○　シーグラスを使った活動をはじめたきっかけを聞く。 シーグラスにはレアキャラがいるよ！ みんなが海で集めたシーグラスにはレアキャラいるかな？ へえー、すごい！ これはレアキャラかな？ ○　シーグラスが最近少なくなってきている理由について考え、鈴木さんの考えを聞く。 理由として考えられるのは 「ポイ捨てが少なくなってきた」 「ビンがペットボトルに変わってきた」など考えられるよ。 ―休憩（10 分）― ○　海で見つけたシーグラスでオリジナルグッズを作る。「オリジナルのフォトフレーム製作」	

まとめ	10	○　感想と製作したフォトフレームの発表 皆さんの作ったフォトフレーム。どんな風になったか他の人に紹介しましょう。 色を工夫して、作りました。 シーグラスを使って、魚、カメを作りまし ○　終わりのあいさつをする。	

子供たちの感想

「シーグラスがどこからきたのか考えたことがなかったので、教えてもらえてよかったです。」
「レアない色のシーグラスをみることができて嬉しかったです。フォトフレームも可愛く作ることができて楽しかったです。」

本授業で高まったと考えられる資質・能力

- □ 情報収集・判断　□ 対話　□ 問題解決　□ 持続的利用
- ☑ 感動　☑ 関係　□ 主体　□ 継続

海　洋　教　育　科　学　習　指　導　案

1 年生２クラス：　計 55 名

指導者
教諭　　小水流
講師　　小倉・磯村
地域協力者　　22 名

1　題材名　トークフォークダンス
「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは

※トークフォークダンスとは：フォークダンスのように、どんどん相手を変えて対話をする方法。外・内と２重の円を作って座り、向かい合わせになった相手と対話をしたら、外側に座った人だけ左にずれていく。どんどん新しい人と会話していくので、たくさんの人とコミュニケーションとることができる方法。

2　本時の実際

(1)　目標

・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方と対話することを通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深める。
・対話を通し、地域の現状への理解を深め，探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つける。

(2)　展開

	学　習　活　動	時間	指　導　上　の　留　意　点
導入	1　講師・参加者の紹介 2　学習課題の確認 学習課題 「与論町の魅力・良さ」 「与論町の課題・問題」とは？	5 分 5 分	○　授業に協力してもらう、地域協力者の自己紹介 ○　地域の方が参加し対話する意義を理解させる。

展 開	3　トークフォークダンスの補足説明 4　トークフォークダンス実施 トークテーマ①「与論町の魅力・良さ」 （2 分×8 回） 休憩 5　トークフォークダンス実施 トークテーマ②「与論町の課題・問題」 （2 分×8 回）	5 分 16 分 8 分 16 分	○　内円と外円でクラスを分ける。生徒の間には、地域の方を配置する。普段会話をしない相手との対話ができる環境設定をする。 ○　ワークシートは事前に生徒に配布し、テーマに対し自分の考えが記入できるようにする。 ○　対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。
終 末	6　まとめ 「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは？ 他者に伝えることで、自分の考えが明確になった。立場の違う人や普段話す機会の少ない人との対話を通し、新たな発見や再認識をした。	15 分	○　生徒、地域協力者数名から対話を通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3)　評価

・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方との対話を通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深めることができたか。

・対話を通し、地域の現状への理解を深め，探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つけることができたか。

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

1 年生２クラス： 計 55 名

指導者
教諭　　小水流
講師　　小倉・磯村
地域協力者　　27 名

1　題材名　「地域の方の名刺を作ろう」: インタビュー
「興味・関心のある人について知る」

2　本時の実際

(1)　目標

インタビュー：興味・関心のある人について知る

・必要な情報を聞き出したり、収集したりする。
・多くの情報から取捨選択できるようにする。
・関連情報にも目を向けて視野を広げる。
・コミュニケーション能力や社会性を養う。

(2)　展開

	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1　講師・参加者の紹介 2　インタビューの方法について説明 学習課題 インタビューを通して、興味関心ある分野を深掘りしよう。	5 分 5 分	○　授業に協力してもらう、地域協力者の紹介 ○　地域の方が参加し対話する意義を理解させる。

展 開	3　インタビュー開始	30 分	○　1 グループ：生徒と地域サポーター含め 5 名程度で実施する。 ○　事前に生徒に「興味関心のある分野」に関するアンケートを実施。回答を参考にインタビュー対象者を設定する。 ○　インタビュー用ワークシートを事前に配布 ○　対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。
終 末	6　まとめ 興味関心のある分野の方へのインタビューを通して、分野についての情報はもちろん「人となり」「雰囲気」「大切にしていること」などに触れる機会とした。また、「面白い、カッコいい、他の人に教えてあげたいと思った点」「その人のイメージや印象」など生徒一人一人が感じたことを記録し表現に繋げる。	5 分	○　生徒、地域協力者数名からインタビューを通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3)　評価

・インタビューを通し、興味関心のある分野について必要な情報を聞き出したり、収集することができたか。

・関連情報にも目を向けて視野を広げることができたか。

・インタビューを通して、初めて会う方とのコミュニケーションを楽しむことができたか。

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

1年生2クラス： 計55名

指導者
教諭　　小水流
講師　　原田・田畑
小倉・磯村

1　題材名　「地域の方の名刺を作ろう」

2　本時の実際

(1)　目標

・インタビューを通して「面白い、カッコいい、他の人に教えてあげたい」と思うことを探り、自分なりに得た情報を整理、分析し表現する。

・名刺作成を通して、自分の将来を考えるのに役立つような、理想とする大人、生き方のモデルを見つける。

(2)　展開

	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1　講師の紹介、授業内容・目的について 2　名刺の作り方について 学習課題 インタビューを通して、知り得た情報を整理、分析し表現する。	10分 10分	○　授業に協力してもらう講師の紹介 ○　授業の流れと、レイアウト・デザイン例の紹介 ・各クラス教室に別れて実施：講師各2名配置 ・講師はPC&モニター、生徒はタブレットを使って制作作業を実施。

展 開	3　名刺の制作	前半 30 分 休憩 10 分 後半 45 分	○　講師がモニターで作業を実演後、生徒は各自タブレットを使用して制作を行う。 ①テンプレートを決める ・縦・横選ぶ ・イメージに近いテンプレートを選択 ②情報をまとめ、入力する ・名前→会社名・団体名→住所・電話番号→SNS、HP など順番に入力 ③レイアウト・デザインを編集 ・写真を追加 ・背景を選択、変更 ・イラストを追加 ④保存する ・保存名を確認を名刺のデータを共有できるように保存 ※講師、担当教諭はサポートが必要な生徒のフォローに入る。
終 末	6　まとめ、振り返り インタビューを通して、各生徒がそれぞれ得た情報を整理、分析し表現する機会となった。表現を通して、自分の将来を考えるきっかけとした。	5 分	○　名刺のデザインを複数名の生徒に共有してもらいながら、「インタビュー」「名刺作り」を通して感じたことを発表してもらう。 ※後日出来上がった名刺は各生徒から地域の方にお渡しし、実際に使っていただく。

(3)　評価

・インタビューを通して「面白い、カッコいい、他の人に教えてあげたい」と思うことを探り、自分なりに得た情報を整理、分析し表現することができたか。

・名刺作成を通して、自分の将来を考えるのに役立つような、理想とする大人、生き方のモデルを見つけることができたか。

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

令和 5 年 5 月 12 日
1 年生 50 名、2 年生 43 名
教　諭： 猶木
講　師： 田畑
地域サポーター4 名

1　題材名　与論島で課題解決実践中の大人・高校生によるトーク&クエッション

2　本時の実際

(1)　目標

・課題解決実践に挑む、大人・高校生の活動内容・喜び・苦労・工夫を共有することで、生徒たちの中に「自分なりの課題テーマを見つけたい」という前向きな気持ちを作る。

(2)　展開

	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1　授業の流れににについて 2　与論島で課題解決実践中の大人と高校生によるトーク&クエッション（パネルディスカッション） 1）課題設定について	5 分 10 分	○　授業の流れに関して、担当教諭が説明 ○　パネラー：7 名 村上由季、栗本実、野口貴子、菊凛太郎（社会人）川畑光麗、有村一花、永野海璃（高校生） ・自己紹介をかねて 「名前・仕事・あなたがチャレンジしていること」、チャレンジ・活動しようと思った「きっかけ」
展	2）課題解決のプロセスでの向き合った困難 3）残している課題	10 分 10 分	・こんなはずじゃなかった！？想像していたことと違っていていた、私を助けてくれた救世主のエピソード ・今後、取り組みたいと思っていること、目をつけていること。協力してくれる人

開			を探していること。
終 末	4）活動・チャレンジをしていて 3　振り返り 　　オーディエンスの生徒からの質問	10 分	・課題解決をしていて、自分が大切だと思ったこと、伝えたいこと。 パネルディスカッション中も適宜質問を受け付ける

(3)　評価

・課題解決実践に挑む、大人・高校生の活動内容・喜び・苦労・工夫を共有することで、生徒たちの中に「自分なりの課題テーマを見つけたい」という前向きな気持ちを作ることができたか。

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

令和 5 年 5 月 12 日
1 年 50 名、2 年 43 名、3 年 26 名
教　諭： 猶木、堀切、中村
　　真方、田山、一瀬
講　師： 与論町海洋教育事務局 3 名
　　地域サポーター20 名
場　所：与論高校体育館

1　題材名　ワールドカフェセッション「私が望む与論の未来は?」

2　本時の実際

(1) 目標

・課題研究を通して行う探究活動を始めるにあたり、様々な領域で活動している地域住民及び大学スタッフとの討論から、生徒の知見を広げる。

(2) 展開

	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1　授業の流れににについて	10 分	○　授業の流れに関して、担当教諭が説明 ・全 20 テーブル ・ホスト役で各テーブルに生徒 1 名・計 20 名､地域サポーターが各テーブル 1 名･計 20 名 ・着席した状態でスタートする ・会場：エンタくんスタイルへ ・進行：事務局 田畑
展開	2　ワールドカフェ実施 ・ワールドカフェ１ ―移動― ・ワールドカフェ２ ―移動―	60 分	・各テーブルでは生徒ファシリテーターが司会進行 ・講師と本校教諭はサポート テーマ： 「私が望む与論の未来は?」 ※ワールドカフェは3回転する予定だが、当日の各グループの話し合いの様子を見

	・ワールドカフェ３ ―移動―		て 2 回転にするなど、進行は臨機応変に対応する。
終 末	3　振り返り 　生徒、地域サポーターからの振り返り	10 分	・代表数名に振り返りを発表してもらう

(3) 評価

・課題研究をとおして行う探究活動を始めるにあたり、様々な領域で活動している地域住民及び大学スタッフとの討論から、生徒の知見を広げることができたか。

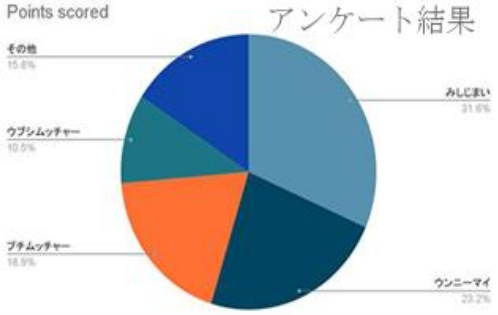
児童・生徒発表資料

与論の文化を受けつぎ隊

与論小学校　４年生

与論の伝統的な食べ物

アンケート結果



・ミシジマイは、炊き込みご飯のようなもので、大晦日や　お祝いごとに食べるもの。

・大晦日にはさしみとあわせておそなえすることもある。

・大きな節目となる特別な日である与論の晴れ日に食べられている。

・３学期始業式の給食にもミシジマイとウンニーマイが出た。

青山さん

宮崎さん

重久さん

芭蕉布

琉球王朝時代の王族が好んで身につけた

芭蕉布＝高級品

風通しが良い

さらりとしたはださわり

はだにまとわりつきにくい

軽くてはりがある

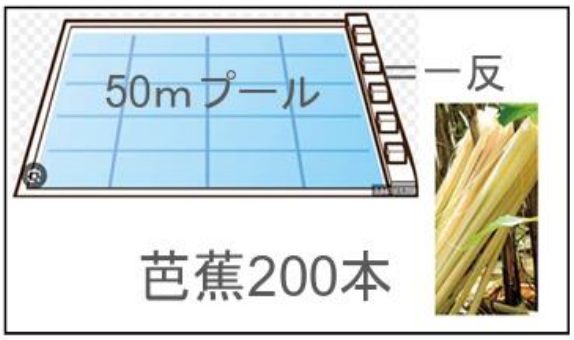
種類

花芭蕉

糸芭蕉

実芭蕉

作業服
普段着
晴れ着
2×


50mプール
＝一反
芭蕉200本

芭蕉布織り体験
9 芋績み
8 チグル巻き
7 陰干し
6 繊維取り
5 水洗い
4 煮る
3 芭蕉剝ぎ
2 切り倒し
1 葉止め 芯止め

18 完成
17 織り
16 筬通し
15 綜絖通し
14 巻き取り
13 仮筬通し
12 整経
11 上げ枠
10 撚りかけ

おうみ

よりかけ

3

織り

みんなで作った芭蕉布

与論の文化を受けつぎ隊

与論小学校　４年生

4

自然・生き物班

茶花小学校　6年

調査すること

GO! GO!

・与論島と鹿児島の違い・与論町の地質
・爬虫類や両生
・季節別の生き物
果

与論と鹿児島の違い

○鹿児島

・鹿児島は小さな山脈や河川がとても多い。
・平野部が限られているが、2643kmにおよぶ変化に富んだ海岸線があることが大きな特徴。
桜島も有名。
・比較的平野部が少なく、自然が豊か。

○与論島

・与論にはサンゴ礁がたくさんあ
・与論は奄美群島の最南端に位置している。
・海はボートが浮いて見えるほどの透明度を誇っている。

与論の生き物

両生類　３種

・ハロウェルアマガエル
森林の周辺部、草地や人家、その周辺に生息している。

・ヒメアマガエル
平地や林に広く生息している。

・リュウキュウカジカガエル
生息地は海岸近くから山地まで広く生息している。

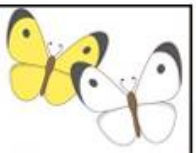
陸上爬虫類　６種

奄美の有人島の中で喜界島とともに最も少ない。
下記のうち、アカオキナワキノボリトカゲは２０１５年になって生息が確認された。

ヘビ亜目：　リュウキュウアオヘビ、アカマタ

トカゲ亜目：　オキナワキノボリトカゲ

春の生き物



〔昆虫〕てんとう虫・ベニシジミ
・モンシロチョウ
〔花〕スミレ・タンポポ・カラスノエンドウ
など

夏の生き物

・クマゼミ　・カマキリ　・アオスジアゲハ
・ダンゴムシ

秋の生き物

・キリギリス
・コオロギ
・クツワムシ
・ヒガシニホントカゲ
など。

冬の生き物

・オオカマキリの卵・ミノムシ・キタテハ〈冬越し〉
・てんとう虫〈冬越し〉・シロアゴガエル〈冬越し〉

与論島で行われている農業

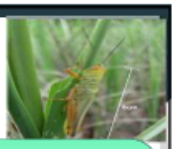
産業の種類は
漁業、機織業、観光産業、商業、農業、工業などがある。

そのなかでも農業についても
調べてみようと思いました

・基幹産業である農業は、サトウキビ、カボチャ、インゲン、花き園芸等の早出栽培や畜産が盛んに行われた。

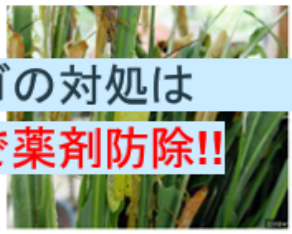
・昭和三十八年には、南東開発株式会社の大型製糖工場が完成し、サトウキビ振興に大きく寄付し、あわせて中・後期奄美振興事業計画により、大規模な、ほ場整備が着々と進行し耕地面積の拡大・改良をしていた。

ヒゲマダライナゴ⇒



○特徴
体長：成虫は40～70mmの大型のバッタ
からだ：その名のとおり、黒白のマダラの触覚を持つ。
つやのある淡緑の色のからだにくっきりとした黒い
よこみぞが胸に見られ、他のバッタと区別できる
食べ物：サトウキビの他、イネ科の牧草・雑草も食べる

ヒゲマダ
被害 現状 ⇒



イナゴの対処は
ドローンで薬剤防除!!

森の植物

温暖で住みやすい与論島は、昔からたくさんの人が住み、森は燃料の供給源として利用され、崖の木々もたびたび伐採されてきた。このため森は、人の手の入った二次林ばかりです。

森の植物

与論島を自生の北限とする低木で、赤く熟した果実は酸味や渋みがあり果実酒などに利用されている。

帰化植物

与論島の人々は生活に利用するために、島外からの様々な植物を取り入れた。

ゲットウ（ショウガ科）
（イネ科）

ホテイチク

与論町の地質①

与論島のほとんどが石灰岩で、できていることが分かります。

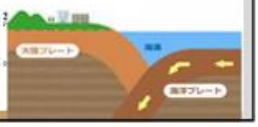
南部には、島の土台となる岩の立長層（四万十層郡に対比されるふかたいたいせきぶつ）

が所々に露出しています。

与論町の地質②

地球の表面は、厚さ約１００キロメートルの　　「プレート」と呼ばれる硬い岩盤でできており、　　大陸を乗せた「大陸プレート」と、海の「海洋プレート」のほどに分かれています。

これによって日本列島の土台ができた。



与論町の地質③

与論島のほとんどは、およそ１００万年前くらいに作られた、琉球層群　石灰岩「琉球石灰岩」でおおわれています。

石灰岩が雨水によって溶けて、できた赤崎鍾乳洞

パピルスとは

パピルスとは3000年前古代エジプトで使われていた絵とか文字とかを書いたりするものです。ほぼ紙のようなものです.

バナナの茎で紙の作り方

①バナナの茎をビーラーで裂きます。
②水に入れて１日～３日くらいおいておきます。
③バナナの茎を縦と横に重ねます。
④長かったらはさみで半分に切ります。隙間がないくらいに重ねます。　⑤
パピルスの上に重りをのせます。
早かったら1週間くらいでできます。

感想

・パピルスが完成してさわったらがんじょうですごかった。
・もっと与論のことを知ることができました。

・パピルスを作るときに茎が太くて失敗しそうだったけど成功してよかったです。

・僕たちが調べた中で一番与論の地質が驚きでした。
・パピルスを作るのが難しかったです。

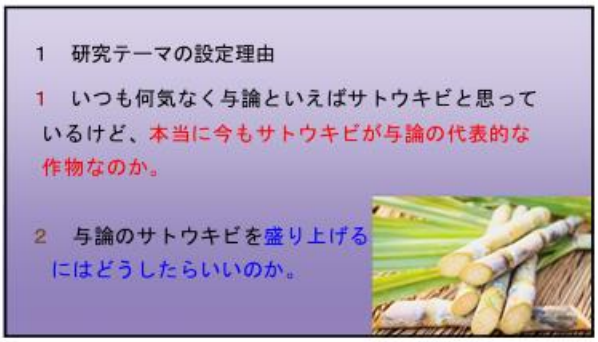
まとめ

このように与論は、他の地域にはない自然の良さがあります。　そして、与論は今でも環境が変化し続けています。

ありがとうございました

終わり

分かった気でいませんか？
サトウキビ生産量減少を
防ぐには？
与論中学校　２年


１　研究テーマの設定理由
１　いつも何気なく与論といえばサトウキビと思っているけど、本当に今もサトウキビが与論の代表的な作物なのか。
２　与論のサトウキビを盛り上げるにはどうしたらいいのか。

２　研究の方法
１　インターネット
２　与論製糖工場の人にインタビュー

研究報告①
(t)
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
S50 55 60 H元 5 9 10 11 15 17 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 H元 2 3 4
図５　生産量の推移

研究報告②
サトウキビ畑減少

研究報告②
２つ目高齢化
与論町の高齢化率の推移
(%)
与論町
全国平均
60
50
40
30
20
10
0
26.1
28.4
31.0
31.3
35.0
41.1
44.1
45.2
47.0
48.6
17.4
20.2
23.0
26.6
28.7
30.0
31.2
32.8
35.3
36.8
2000年
2005年
2010年
2015年
2020年
2025年
2030年
2035年
2040年
2045年
実績
予測

研究報告③

手作業　　３つ目機械化の遅れ
機械化

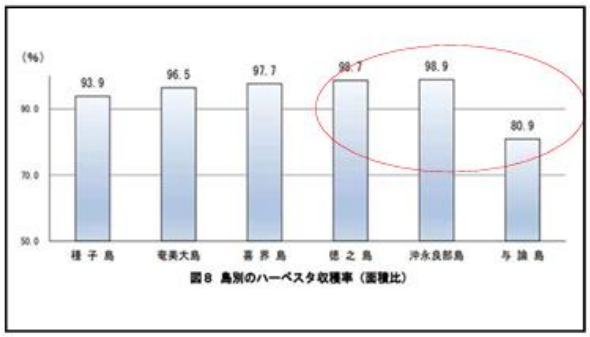


図８ 島別のハーベスタ収穫率（面積比）

研究報告④

サトウキビ農家の取り組み
若い世代に呼びかけを行う

自分たちに出来ること

自分たちが次に跡継ぎになる

次に世代へ呼びかけを行う

研究報告⑤

与論島は生産量が大幅に減っているのに，奄美は少ししか減少していない。

１　資源の循環で造られた堆肥を利用をしている。

２　サトウキビが被害に合うメイチュウ類を寄せ付けにくい雑草や適切な駆除作業をしている

４　考察（研究から見えてきたこと）

与論サトウキビ生産量増加に役立てそうなこと

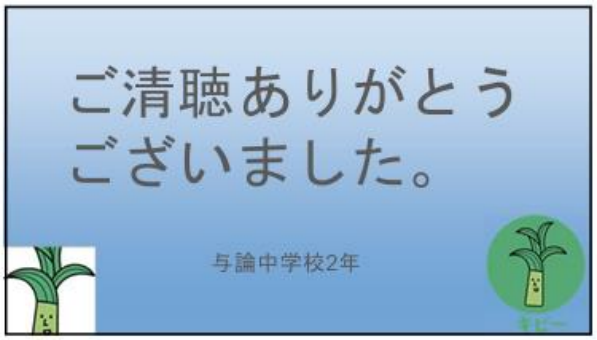
① 与論島のYouTubeやX(旧ツイッター)などで呼びかけをより活発にする。

② 与論のサトウキビを作っている農家さん達の姿を載せたポスターを作り，店などで掲示させてもらう。

５　今後の課題（研究の方向性など）

まずはポスター作りにチャレンジしてみたいなと思った。（考察で挙げたように）

与論や奄美以外のサトウキビ農家はどんな取り組みをしているのか知りたいと思った。


ご清聴ありがとう
ございました。
与論中学校2年

与論の水は健康によいのか

与論高等学校　２年　松井美海　宮下瑚遥

１，研究背景と目的

与論島は石灰岩によって構成されている。そのため、水道水の硬度が日本平均に比べて非常に高い。

	与論の水道水（那間小）※昨年度測定	日本の水道水の平均（滝など、2021）
硬度(mg/L)	245.73	48.9

この特殊な水道水についての島民の意識を調査するために与論高校の生徒・教師の家庭を対象にアンケートを行った。その結果、与論の水道水について悪いイメージが広がっていることがわかった。本研究では、与論の水道水が「健康によい」ことを明らかにし、与論の水道水のイメージを向上させることをめざす。

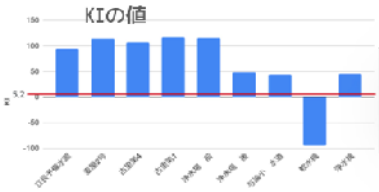
２，調査方法

①採水調査
与論島の各水源地、各小学校、軟水機・浄水器を通した水

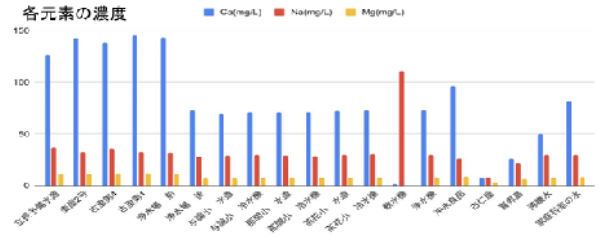
②ICP－AESによる水の分析
東京大学大気海洋研究所の協力で、ICP－AESを用いてサンプル中のナトリウム、カルシウム、マグネシウムの量を測定。

③健康に良い水指標
K-Index＝Ca-0.87Na≧5.2（mg / L）
②の結果をもとに、与論の水が健康に良いのか判断の基準のためこの指標を用いた。
（出典：橋本奨、1988、化学と生物250号）

３，結果・考察

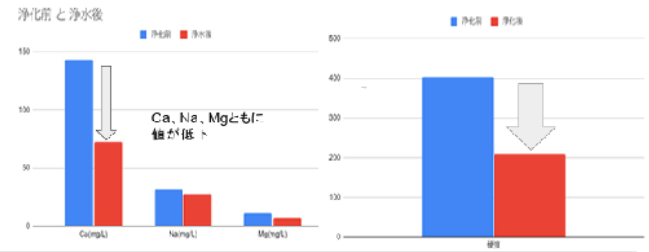


①KIの基準値との比較
基準となる値の5.2を大幅に超えている



処理済の水道水の各元素濃度に大きなちがいは見られなかったため、与論の水道水として与論小学校の水道水の値を代表として用いる。

②浄水前と浄水後の硬度の比較



硬度は水の飲みやすさなどに影響し、硬度が低い方が飲みやすい。
硬度＝（Ca量 x 2.5）＋（Mg量 x 4.1）（mg/L）
Ca,Na,Mgともに値が小さくなっている
→硬度が低下し、飲みやすい水に

③軟水機を通す前と通した後のKIの比較

	Ca(mg/L)	Na(mg/L)	KI
与論小　水道水	69.7	28.7	4.6
軟水器を通した水	1.6	110.4	94.4

軟水化によりCa量が低下＋NaClを加える操作によりNa量が増加→KIの大幅な低下

④Caの摂取上限量と摂取量の比較

	推奨摂取量	平均摂取量	水から摂取する量（mg/L×水摂取量2.5L）(本研究)	一日摂取量（平均摂取量＋水から摂取する量）	一日上限摂取量
Ca	800mg	503mg	174.3mg	677.3mg	2500mg

出典：健康長寿ネット　※標準的な成人男性の場合

カルシウムの摂取量が上限を超えていないか調査した。推奨摂取量は800mgだが、平均摂取量は503mgである。これに本研究のデータより求めたカルシウムの濃度69.72Mg/Lに一日に摂取する水の量2.5Lをかけ、水から摂取する量を求めた。これに平均摂取量を加えると、一日に摂取するカルシウムの量677.3mgが求められる。これは一日上限摂取量の2500mgを十分に下回っている。
したがって、与論の水道水を日常的に飲用してもカルシウムを過剰摂取することにはならないと考えられる。

４，結論

・KIが基準値である5.2を十分に超えていること
・カルシウムの摂取上限量を超えることはないだろうこと
以上の2点から、与論の水道水はKIの観点においては健康によいと言うことができる
※あくまで健康によい水指標（KI）の観点での評価であり、市販の水や軟水機を通した水が健康に悪いということはない
※健康によいかどうかはKIだけによって決まるものではない

６，今後の展望

・与論と奄美大島など他の地域の百歳以上の高齢者の割合（百寿者率）を算出し、比較する。
・与論島の飲料水の硬度の変化と結石患者数の関連性を調べる。

天然もずくはなぜ消えた!?

与論高等学校　2年　内野勇清　林空莉亜

1. 研究背景と目的

与論には昔たくさんのもずくが生えていたことを聞いた。私たちは天然のもずくを見たことがなく、食べたこともない。天然もずくを食べたい！見てみたい！

2. 方法

漁協にインタビュー

3. インタビュー内容

⑴天然もずくはいつからなくなったのか

⑵なぜ天然もずくがなくなってしまった　のか

⑶もずくの養殖方法

インタビューで分かったこと

1973年頃　養殖開始

2003年　サンゴの大量白化

2008年頃　天然もずくの消滅

2023年　養殖もずくが採れなかった

養殖の方法

①海から胞子を採取する

②胞子を地上の水槽のような場所で増やす

③増えたら養殖用の網に植え付ける

④網を海に沈める

⑤5月ごろに収穫

養殖場所
:シーマンズ沖　引用　マリックスライン

インタビューで聞いた仮説

⑴もずくの生える石、サンゴのなどが砂に　埋まってしまったから

⑵水質の変化

⑶地球温暖化による海水温の上昇

⑷ウミガメや魚による食害？

4. 考察

今までにわかったことから考えられること

・養殖の時、もずくの胞子は海から採取しているため、もずくの胞子は海に今もいる

・養殖が生えるので水質や水温などが原因　とは考えにくい

5. 仮説

もずくが生えられる基盤（根を張る石ややサンゴの死骸）が砂に埋まってしまった

仮説から考えた天然もずくを増やす方法

①海底を掘り起こす

②種付けした基盤（サンゴの死骸）を海に沈める

6.「今後の活動」

⑴養殖について詳しく調べる

⑵もずく組　二期生を増やす

ぜひ、天然のもずく復活をご協力ください

二期生をやってみたい人は

林空莉亜　内野勇清に声をかけてください

発表会・研修の報告

1. 第４回ヨロン海洋教育フェア

実施日：令和５年１月３０日（火）

会　場：砂美地来館

参加者：与論小学校　４年生　２３名　　与論中学校　　２年生　　５３名

茶花小学校　６年生　２５名　　与論高等学校　１・２年生　　９０名

那間小学校　５年生　１３名　　（児童生徒　計２０４名）

その他，来賓，引率教員，海洋教育地域サポーター，保護者及び一般町民

目的：

⑴　町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで，児童生徒の個々の学びを深める機会とする。

⑵　与論の海，海に守られた伝統・文化，海と共に生きる人々の姿について児童生徒と地域の大人が学び合うことで，海洋教育の地域展開を推進する。

内容：14：00 ～ 14：05（ 5）　開会式

・　開会のあいさつ（教育長）

・　フェアの流れの説明

14：07 ～ 14：17（10）　与論小学校の発表（４年生）

14：17 ～ 14：22（ 5）　共有タイム

14：22 ～ 14：32（10）　那間小学校の発表（６年生）

14：32 ～ 14：37（ 5）　共有タイム

14：37 ～ 14：47（10）　茶花小学校の発表（５年生）

14：47 ～ 14：52（ 5）　共有タイム

14：52 ～ 15：01（ 9）　与論高校の発表（サイエンスキャンプの報告）

15：01 ～ 15：09（ 8）　休憩

15：09 ～ 15：19（10）　与論中学校の発表（２年生）

15：19 ～ 15：24（ 5）　共有タイム

15：24 ～ 15：40（16）　与論高等学校の発表（１・２年生代表者）

15：40 ～ 15：45（ 5）　閉会式

・講評（鹿児島大学　南九州・南西諸島域イノベーションセンターセンター長　藤枝　繁）

・閉会のあいさつ（海洋教育推進協議会会長）

2.　与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施状況：３回（詳細は「内容」参照）

参 加 者：与論中学校　徳　重　正　宏　校長（海洋教育部会顧問）
与論小学校　中　嶋　　渥　教諭（海洋教育部会部長）
茶花小学校　宮　下　ゆかり　教諭（海洋教育部会部員）
那間小学校　宮　下　洋　平　教諭（海洋教育部会部員）
与論中学校　長　薗　　誠　教諭（海洋教育部会部員）
与 論 高 校　猶　木　香　奈　教諭（海洋教育部会副部長）
与論町教委　兒　玉　拓　世　指導主事

目　　的：

町内全ての学校の海洋教育担当者による協議をとおして，与論町が推進する海洋教育の展開の在り方について検討する。

内　　容：

〔第１回　令和５年５月１２日（金)〕GoogleMeet を用いたオンライン会議

・　海洋教育科『ゆんぬ学』について

〔第２回　令和５年９月１２日（火)〕GoogleMeet を用いたオンライン会議

・　「地域と連携した協動的な探究学習」を目指して

・　「第４回海洋教育フェア」について

〔第３回　令和５年１１月３０日（木)〕GoogleMeet を用いたオンライン会議

- 「第４回海洋教育フェア」について
- 地域と連携した協働的な探究学習について
- 次年度の教育課程編成について

3. 与論町教職員等夏季研修会

ゆんぬ学研修　①『与論のゆたかな海からゆんぬ学への活動へ繋げよう』

②『与論郷土研究会 麓才良さんから学ぶ与論の歴史と文化』

目的：体験を通して、与論町の歴史・文化や与論の海のゆたかさや課題を体感し、各学校で行われている『ゆんぬ学』の活動充実に生かす。

参加者：与論町内小・中学校、高等学校職員　計 39 名

内容

① NPO 法人　海の再生ネットワークよろん　池田香菜さんによる
「サンゴ礁のゆたかな海」についての講話
海洋体験：ビッグ SUP・シュノーケリング

② 与論郷土研究会　会長　麓才良さんによる与論の歴史文化についての講話
フィールドツアー（与論城跡・与論小発祥の地・按司根津栄神社　等）

国頭・本部交流会

目　的：

- 与論町海洋教育に関わる学校職員、協議会が合同で与論町海洋教育や学校教育への理解を深める。
- 新しい授業、これまでの授業内容の発展など児童・生徒の探究学習を深めることにつながる授業を企画する。また、他地域の協力者と繋がる。
- 今後、児童・生徒が探究成果の発表などで島外と交流できる機会を企画する。

会次第

国頭村　教育委員会　「世界自然遺産教育」

国頭村教育委員会　親川　将志　指導主事

1. 国頭村　教育委員会　自己紹介　・・・5分

2. 国頭村「世界自然遺産教育」とは
   経緯や、プロジェクト計画など　・・・15分

3. 活動内容学について
   学校の先生方や児童・生徒の様子、授業や課外活動について　・・・10分

4. 地域との関わり方　・・・10分

5. 他地域との交流、今後について　・・・10分

6. 質問、交流タイム　・・・10分

本部町 地域おこし協力隊　「教育魅力化プロジェクト」

本部町参加予定者　本部町地域おこし協力隊　計12名
公営塾　計6名（中学校4名・小学校2名）
小中学校の「総合的な学習の時間」のコーディネーター　計4名（小学校3名・中学校1名）
本部高校の魅力化コーディネーター　1名／推進部2名
教育委員会：小路さん・平片さん

会次第

本部町 地域おこし協力隊　「教育魅力化プロジェクト」

1. 本部町　地域おこし協力隊の自己紹介　・・・10分

2. 本部町での教育魅力化プロジェクトとは　・・・10分

3. 学校コーディネーターの活動内容　・・・15分

地域、行政、コーディネーター、学校の関わり方、繋がり方など

4. 高校魅力化担当の役割　・・・15分

小学校、中学校との連携など

5. 推進部（事務局機能、全体統括）の役割　・・・15分

6. 公営塾の現状、今後の展望　・・・15分

公営塾と学校、地域、行政との関わり方など

質問、交流タイム　・・・10分

4. 与論町海洋教育魅力化シンポジウム

講師：リクルートEd-tech総研所長　山下　真司　氏・与論高等学校　校長　甲斐　修氏

実施日：令和５年６月２１日（水）

参加者：地域サポーター・茶花小学校　校長・与論高校職員・海洋教育推進協議会事務局

内　容：与論町海洋教育のグランドデザインである、地域と連携した協働的な探究学習により児童、生徒に『島だち』後の社会を生きていく力を育むことを目指す上で、茶花小学校教師である前園麻美先生のこれまで実践された内容に基づき、『海洋教育をどのように作ってきたか』、『地域とどのように連携してきたか』、『これまでの実践で感じたこと』の３点に重きをおき、講話を頂いた。

プログラム

⑴　開会の挨拶

⑵　与論町の海洋教育の紹介

⑶　講　演　「これから生きる子どもたちに，何が求められるのか？」

講　師　リクルートEd-tech総研所長　山下　真司　氏

⑷　取組発表「与論高校の挑戦–受験学力を超える“島を育てる学力”を育成する–」

発表者　鹿児島県立与論高等学校校長　甲斐　修　氏

⑷　パネルディスカッション

「与論町において今後必要な『教育×地域』の在り方」

パネリスト：山下 真司 所長　（株式会社リクルート）

甲斐　　修 校長　（県立与論高等学校）
町岡 光弘 教育長（与論町教育員会）
池田　　剛 会長　（与論町海洋教育推進協議会）

その他教育委員会としての取り組み

令和５年度　短期研修講座「実践から学び総合的な学習・探究の時間」

実施日：令和５年１１月２２日（水）
会　場：与論町役場　多目的ホール
参加者：県総合教育センター　竹下　洋一　研究主事
与論小学校　中嶋　渥美　教諭
上原　淑子　教諭
茶花小学校　齋藤　泰史　教諭
那間小学校　髙橋　彩香　教諭
与論町教育委員会　地域おこし協力隊　小倉有希子
株式会社まなび島　田畑　香織
磯村　愛子

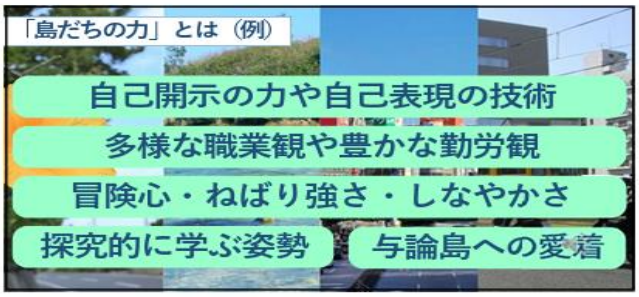
内容　10：00～11：20　講義「総合的な学習（探究）の時間について①」
11：30～12：30　講義「総合的な学習（探究）の時間について②」
13：30～14：30　研究協議「総合的な学習（探究）の時間の具体①」
14：40～15：40　研究協議「総合的な学習（探究）の時間の具体②」
15：50～16：30　研究協議「事項の課題と改善策」

活用資料①

与論島の
海洋教育

与論の子供たちに
身に付けさせたい
島だちの力

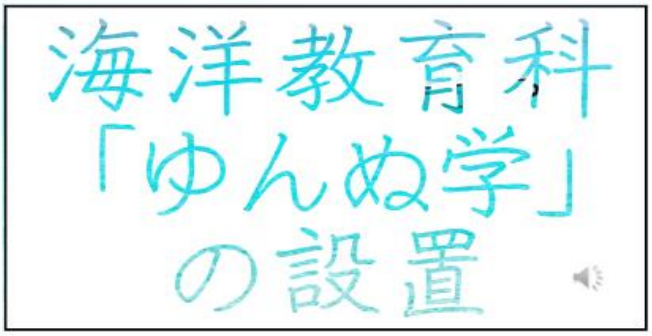
島だち後にも自分の夢や目標を
追い求め続け，新しい社会でよりよく
生きていくための資質・能力
島だちの力



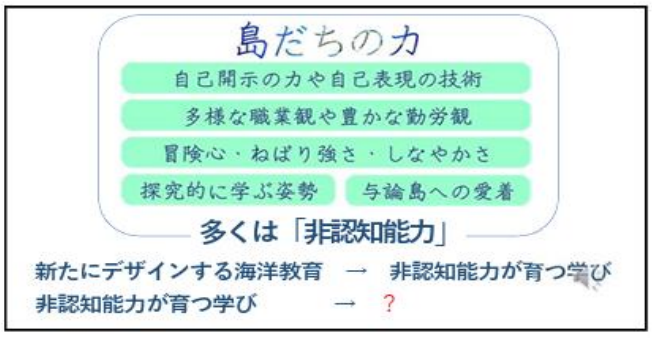
自分には、よいところがあると思いますか
37.3
33.2
39.9
将来の夢や目標を持っていますか
40.0
54.1
50.1
人の役に立つ人間になりたいと思いますか
57.6
73.8
73.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
15.7
26.0
26.4
与論町
本県
全国
地域の大人たちが考える，「与論町の子供たちに望む姿」
・島外のどこで暮らしても，弱音をはいたり，誰かに助けを求めたりできるようになってほしい。
・島外でも，自分の意見をしっかりと表現できる人になってほしい。
・受け身で過ごさず，チャレンジ精神をもって生きてほしい。
・与論町の魅力を島外に発信し，島のよさに気付いてほしい。
・島に誇りをもち，いつかは島に帰ってきてほしい。
※ 令和５年度全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙調査」，小６と中３の児童生徒の平均値
※ 令和２年度９月実施「地域座談会」の記述より

島だちの力
自己開示の力や自己表現の技術
多様な職業観や豊かな勤労観
冒険心・ねばり強さ・しなやかさ
探究的に学ぶ姿勢
与論島への愛着
一体的に育むことができる場として，各学校の海洋教育に着目

海洋教育の一層の充実
海洋教育科「ゆんぬ学」の設置
与論町海洋教育推進協議会の立ち上げ


海洋教育科
「ゆんぬ学」
の設置

先駆的な単元開発
島だちの力育成のヒント
小中高に部会設置
茶花小「パイオニアスクールプログラム単元開発部門（H29～）」


島だちの力
自己開示の力や自己表現の技術
多様な職業観や豊かな勤労観
冒険心・ねばり強さ・しなやかさ
探究的に学ぶ姿勢
与論島への愛着
多くは「非認知能力」
新たにデザインする海洋教育 → 非認知能力が育つ学び
非認知能力が育つ学び → ？

「海洋教育の学び」のコンセプト

村瀬公胤氏による
町教育講演会(R3)

非認知能力は
探究的・協働的な学習
によって育つ

キーワードは
「探究」と「協働」

「海洋教育の学び」のコンセプト

地域と連携した，

協働的な

探究学習

海洋教育のねらい

子供たちを，与論の海，海に守られた伝統文化，海と共にある暮らしとそこで生きる人々の思いなどに対峙させることで，与論と自分との関わりについての問いをもたせる。

そして，その問いの解決を目指す「地域と連携した協働的な探究学習」を通して，島だちの力を身に付けさせる。

R４年度教育課程特例校申請

↓

ゆんぬ学　小３～中３に設置

島だちの力の育成を目指す，
「地域と連携した，協働的な探究学習」

↓

与論高校の総合的な探究の時間「ゆんぬ」に接続

スライドAのまとめ

- 自己肯定感・有用感，粘り強さ・しなやかさなどの島だちの力を子供たちに身に付けさせることは，与論の学校の使命である。
- その「島だちの力」を育むために，町の小・中学校には海洋教育科「ゆんぬ学」が設置されている。
- この「ゆんぬ学」の学びのコンセプトは，「地域と連携した，協働的な探究学習」であり，このコンセプトに基づいた単元開発を各学校にお願いしている。

与論島の海洋教育

海洋教育科
「ゆんぬ学」
での探究学習

スライドAのまとめ

- 自己肯定感・有用感，粘り強さ・しなやかさなどの島だちの力を子供たちに身に付けさせることは，与論の学校の使命である。
- その「島だちの力」を育むために，町の小・中学校には海洋教育科「ゆんぬ学」が設置されている。
- この「ゆんぬ学」の学びのコンセプトは，「地域と連携した，協働的な探究学習」であり，このコンセプトに基づいた単元開発を各学校にお願いしている。

「ゆんぬ学」
の設置と
単元開発

「ゆんぬ学」の設置に当たって

「ゆんぬ学」で何ができるようになるか

「ゆんぬ学」で何を学ぶか

「ゆんぬ学」ではどのように学ぶか

「ゆんぬ学」で何ができるようになるか

島だちの力

自己開示の力や自己表現の技術

多様な職業観や豊かな勤労観

冒険心・ねばり強さ・しなやかさ

探究的に学ぶ姿勢

与論島への愛着

「ゆんぬ学」で何ができるようになるか

島立ち
与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
学びに向かう力・人間性等

島発ち
与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
知識及び技能

島だちの力

島建ち
与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
思考力，判断力，表現力等

「ゆんぬ学」ではどのように学ぶか

地域と連携した，

協働的な

探究学習

ゆんぬ学

与論を学習材として島だちの力の育成を目指す，地域と連携した協働的な探究学習

「ゆんぬ学」の設置

ゆんぬ学

教育課程特例校制度

海洋教育　海洋教育

総合的な学習の時間

国語　社会　算数 数学　…　…　…

各学校の予定時数（文科省申請時）

	3年	4年	5年	6年
与論小	50	48	48	54
茶花小	25	44	61	65
那間小	30	31	43	40
	1年	2年	3年	
与論中	26	46	40	

校区の地理的特徴や文化的特性を生かした，自校ならではの単元開発

各学校の単元開発

与論小「ユンヌ劇」

茶花小「おさんぽＢＩＮＧＯ」

那間小「景観学習」

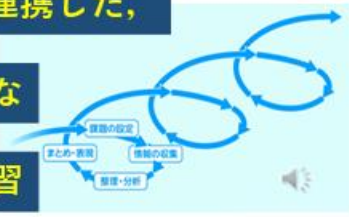
与論中「職業図鑑」等

「海洋教育の学び」のコンセプト

地域と連携した，

協働的な

探究学習



ゆんぬ学

島だちの力の育成を目指す，
「地域と連携した，協働的な探究学習」

↓

与論高校の総合的な探究の時間「ゆんぬ」に接続

「探究」を通して，与論島の未来を創造し，ＶＵＣＡ時代を生き抜く生徒へ

「ゆんぬ学」での探究学習のプロセス

「ゆんぬ学」での学び

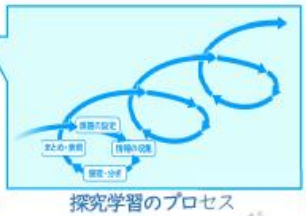
探究学習

↑

地域連携

＋

協働



探究学習のプロセス

課題の設定

与論の生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて，自ら問いをもつ段階

← 地域の大人との語り合い
← 協働的な体験活動

情報の収集

自ら設定した与論に関する問いについて，情報を収集する段階

← 住民や専門家からの聞き取り
← 見学やフィールドワーク

整理・分析

収集した情報を整理・分析し，各教科等での学びを生かしながら問題の解決に取り組む段階

← 友達の意見や地域の大人の助言を整理・分析に生かす

まとめ・表現

明らかになった考えや意見をまとめ・表現し，そこからまた新たな課題を見付け，次の探究へ進む段階

← まとめ・表現に対する他者からのフィードバック

「ゆんぬ学」での学び

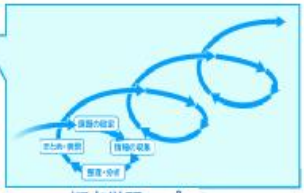
探究学習

↑

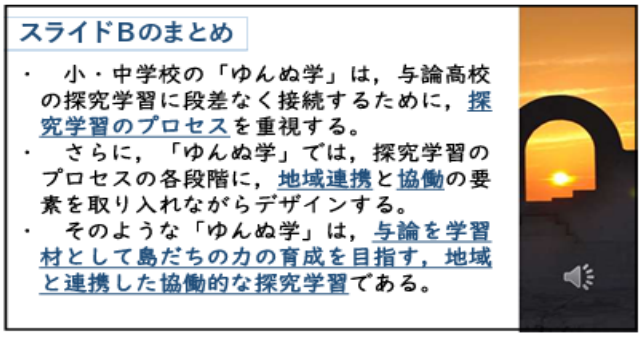
地域連携

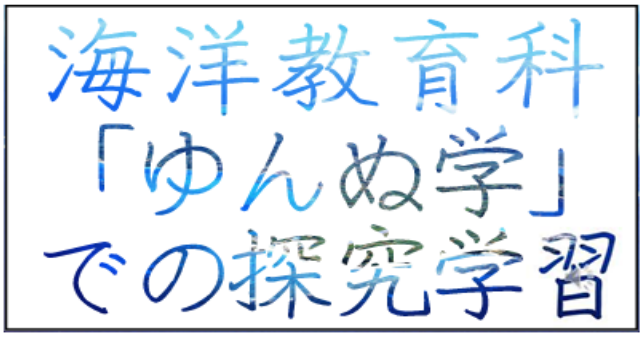
＋

協働



探究学習のプロセス


スライドBのまとめ
・　小・中学校の「ゆんぬ学」は，与論高校の探究学習に段差なく接続するために，探究学習のプロセスを重視する。
・　さらに，「ゆんぬ学」では，探究学習のプロセスの各段階に，地域連携と協働の要素を取り入れながらデザインする。
・　そのような「ゆんぬ学」は，与論を学習材として島だちの力の育成を目指す，地域と連携した協働的な探究学習である。


海洋教育科
「ゆんぬ学」
での探究学習